

第 1 1 回総務文教常任委員会会議録

1 開会日時 平成29年11月14日（火）午前10時16分

2 閉会日時 平成29年11月14日（火）午後 1 時32分

3 会議場所 議会委員会室

4 出席委員

1 番 永徳 省二君	7 番 大口 浩志君	1 1 番 松田 勲君
1 2 番 北川 勝義君	1 6 番 下山 哲司君	1 7 番 実盛 祥五君
1 8 番 金谷 文則君		

5 欠席委員

な し

6 説明のために出席した者

市 長 友實 武則君	副 市 長 倉迫 明君
教 育 長 内田 恵子君	総合政策部長 作間 正浩君
総合政策部参与兼 吉井支所長 徳光 哲也君	総 務 部 長 前田 正之君
財 務 部 長 直原 平君	教 育 次 長 藤井 和彦君
赤坂支所長兼 市民生活課長 黒田 靖之君	熊山支所長兼 市民生活部参与 入矢五和夫君
消防本部消防長 矢部 敬史君	秘書企画課長 小引 千賀君
まち・ひと・しごと 創 生 課 長 遠藤 健一君	総 務 課 長 原田 光治君
くらし安全課長 中川 裕敏君	財 政 課 長 藤原 義昭君
管 財 課 長 小坂 憲広君	税 務 課 長 末本 勝則君
収納対策課長 土井 常男君	教育総務課長 安本 典生君
学校教育課長 松井 啓子君	社会教育課長兼 スポーツ振興課長 土井 道夫君
中央学校給食センター 所 長 久山 勝美君	消 防 本 部 消防総務課長 井元 官史君

7 事務局職員出席者

議会事務局長 奥田 吉男君	主 事 松尾 康平君
---------------	------------

8 協議事項 1) 事業の進捗状況について

2) その他

9 議事内容 別紙のとおり

午前10時16分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから第11回の総務文教常任委員会を開会いたします。

9時半から東学校給食センターの研修ということで視察させていただき、大変皆さん御苦労さんでした。関係者の皆さんにも感謝いたします。

それでは、開会に先立ち、市長のほうから御挨拶をいただきたいと思います。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さんおはようございます。

本日は早い時間から第11回総務文教常任委員会を開催いただきまして、ありがとうございます。

本日は市立の東学校給食センター、先ほど視察をいただきました。その後にこの常任委員会のほうをお願いした次第でございますが、本日の議事については平成29年度の各種の事業の進捗状況、そして来る12月定例市議会に上程させていただく案件の説明等を予定してございます。御協議何とぞよろしくお願い申し上げまして、挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、これから協議事項に入りたいと思います。

協議事項の事業の進捗状況について、総合政策部から説明願いたいと思います。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、小引課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） それでは、総合政策部資料1ページをごらんください。

12月議会にお諮りする予定の平成29年度一般会計補正予算についてでございます。

現在市民バス運行业務を委託しております西山・高陽南線、高陽北西・高月線につきましては、契約期間が平成30年3月末で完了いたします。平成30年4月から5年間の契約更新に向けてバスや運転手の確保などの準備期間が必要となりますので、債務負担行為として3,477万5,000円の補正をお願いするものです。

続きまして、1ページ下段にございます映画「種まく旅人～夢のつぎ木～」についてでございます。

岡山県内の上映結果につきまして、製作会社から提供された情報についてお知らせいたします。県内では10月22日からTOHOシネマズ岡南、イオンシネマ岡山、岡山メルパ、シネマクレール丸の内、MOVIX倉敷の合わせて5館で上映されまして、動員数は計8,752人、興行収入は1,037万4,600円とのことでした。こちらの資料にはございませんが、県外の資料につきまして後ほど届きましたので、申しわけありません、口頭ですが申し上げさせていただきます。

す。県外につきましては合計になりますが30館、動員の人数は8,394人、興行収入につきましては1,082万1,800円になります。

○委員長（北川勝義君） 1,082万何ぼ。

○秘書企画課長（小引千賀君） 金額のほうは1,082万1,800円です。

○委員長（北川勝義君） 1,000。

○秘書企画課長（小引千賀君） 1,800円です。よろしいでしょうか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（小引千賀君） 引き続きまして、資料にございませんが、宇野自動車株式会社様からの申し入れにつきまして情報提供をさせていただきます。

参考までに宇野自動車株式会社様発行の赤磐循環バス時刻表及び路線図を添付しておりますのでごらんください。

○委員長（北川勝義君） 循環……。

○秘書企画課長（小引千賀君） 循環バスのものでございます。A3で見開き縦に見ていただく資料になりますが、こちらの循環バスにつきまして、11月6日、宇野自動車株式会社様から文書によって、平成20年3月に運行を開始されたものですが、運行開始以来の赤字と老朽化した車両の更新が困難との理由によりまして、平成30年5月31日をもちまして運行を休止したいとの御連絡がございました。市といたしましては、この申し入れを受けまして、今年度力を入れております他の路線を含めたバスの利用促進への取り組みをさらに行うとともに、循環バスの運行継続につきまして宇野自動車株式会社様に働きかける予定としております。

なお、お手元に今月発行予定の広報あかいわ12月号に掲載しております「乗って守り、育てよう あかいわの公共交通」と題した特集記事をお配りしておりますので、後ほどごらんください。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ちょっとわからん。どれがどうなった、どれが宇野バスのところ。これか、赤磐循環バスというところか。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そちらになります。

○委員長（北川勝義君） どこがやめるんな。

○秘書企画課長（小引千賀君） この全体です。宇野バスさんが運行されている。

○委員長（北川勝義君） 1、2、3、4、5番を全部やめるということか。何。

○秘書企画課長（小引千賀君） そうです。

○委員長（北川勝義君） 1便、2便、3便、4便、5便、全部やめるということか。

○秘書企画課長（小引千賀君） 全部です。この路線自体をなくしますということで御連絡がございました。

○委員長（北川勝義君） それは宇野バス、いつ。

○秘書企画課長（小引千賀君） 5月31日をもって休止するという事で文書で……。

○委員長（北川勝義君） 平成30年の。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。平成30年5月31日です。

○委員長（北川勝義君） 運行休止な。はい、わかりました。

続いてお願いします。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） それでは、総合政策部の資料編のほうにお戻りいただきまして、2ページをごらんください。

第2次赤磐市総合計画及び赤磐市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進に係る市民アンケートの調査の実施についてのお知らせでございます。

特に総合戦略につきましては5年間で重点的に進めていくというようなことがございまして、市民の皆さんに戦略の施策の推進についてアンケートによりまして満足度についてお聞かせを願っておるところでございます。昨年に引き続きまして3つの重点戦略及びその中の9つの戦略プログラムにつきまして、現状に対する満足度及び今後の取り組みに対する必要性についてアンケートを行わせていただく予定にしております。

アンケートの案につきましては総合政策部の資料として別添に添えさせていただいておりますが、基本的には例年どおりの設問にしております。毎年傾向を見させていただいております。実施期間といたしましては11月中旬から12月20日までということで、3,000名を無作為に抽出して郵送にて配付、回収をさせていただきます。

なお、1枚おはぐりいただきまして3ページ目には、昨年度実施いたしましたアンケートの一部抜粋でございますが、満足度と重要度の相関図による分析ということで、例えばAというエリアに入るような施策ですと重要度が高く、満足度が低い重点化・見直しの領域といたしまして、例えば雇用・勤労者対策の充実ですとか道路・交通ネットワークの整備、雇用・勤労者対策の充実、仕事と子育ての両立などがそのような、重要度は高いんですけれども満足度が低いというあたりの特に重点的に取り組む事業、施策のほうになっております。

Bのエリアになりますと重要度、満足度ともに高いということで、このあたりは現状維持というようなことになりますが、例えば保健・医療の充実ですとか子育て支援の充実、地域ぐるみの子育て支援、学校教育の充実などが挙げられております。

また、Cになりますと重要度が低く、満足度が高いということで、このあたりは現状維持または見直しをしていくという領域になっております。歴史・文化の保存と活用ですとか子育てに関する情報・サービス提供体制の充実、市民主体のまちづくりの推進などが挙げられております。

Dのエリアについてもごらんとおりでございます。

以上のようなことで、またアンケートのほうをさせていただきたいと思いますので、御協力方よろしくお願いたします。

それから、続きまして資料編の4ページをごらんください。

赤磐市の移住体験ツアーの実施についてということで状況をお知らせいたします。

昨年度に引き続きまして、赤磐市への移住を検討する方に移住体験ツアーを実施したいと思っております。今年度は認定こども園の見学や家族で楽しんでいただけるゴボウ掘り体験などを行程に取り入れておまして、主に子育て世代をターゲットにした募集を行っていきたいということで今準備を進めております。

開催日時につきましては12月16日から17日で、初めての試みでございますが、リゾートハウスこれさとと竜天天文台のほうに宿泊をさせていただきまして、やってみたいということでございます。部屋に限りがございますので、募集人員といたしましては世帯でいうと6世帯になりますが、充実したツアーをやりたいというふうに考えております。内容につきましては、そこにありますとおり、土曜日、日曜日を使いましてこども園の見学ですとか、是里のゴボウ掘り体験、先輩移住者との懇談ですとか、日曜日には桜が丘のほうの見学やおためし住宅等を見ていただくというようなことを計画しております。

1枚おはぐりいただきまして、続きまして5ページ、6ページをごらんください。

現在市のほうでは、瀬戸高等学校との地域課題解決に向けた取り組みについて進めております。これは昨年度から取り組みを始めたものでございますが、瀬戸高等学校の1年生の方に我々市の職員が出向いてまいりまして、地域の課題などを紹介し、そして学生たちがみずから地域のことについて調べ、何か自分たちで地域社会に貢献できないかということで取り組みをしていただくということで、昨年度になります。ことしの2月に初めてグループに分かれて、この2番のところにあります地域振興関係者を囲む会というところで、私ども10名参加をいたしまして、出身中学校別にグループに分かれられて、それぞれに研究をし、それから自分たちで何ができるかということを検討されまして、3月から8月にかけてグループごとに地元のほうへ出向いて清掃活動や小中学校での学習支援などを行われております。

6ページの上段でございますように、先日10月26日にその報告会と、またこれはもう2年生になっておりますので、報告会をされまして、その後今の新しい1年生の方にまた新しく赤磐市のことを学んでいただくということで座談会をさせていただきました。中下段でございます。あさって11月16日にまた改めまして、本年度は出身中学校にかかわらず瀬戸高等学校の新1年生、現在160人いらっしゃいます、そのうち赤磐市の出身の子供さんが56人なんです。今年度につきましてはこの160人の生徒さん全員がまず赤磐市のことを学んで、そしてまたお住まいの地域のことにも関心を持ってもらうというようなアプローチをしていこうということで、今回は赤磐市の課題を取り上げて勉強していただくと。これが市にとっても、やがて巣立っていき、あるいは県外へ出ていかれるかもしれませんが、ふるさと赤磐市の地元郷土愛を育

み、また帰ってきていただく若者を、人材育成という観点で大いに意義があることだと思っております。

次の7ページ、8ページをごらんいただきますと、昨年度から始めまして現在2年生になっておられる生徒さんたちが地域でどのような活動をされたかということで出ております。

まず、代表グループがステージ発表された中で3番にあかいわ映画祭り、こちらのほうにボランティアスタッフとして参加をしていただきました。それから、8ページのほうに、上段のほうから⑥番からですけど、赤磐市内のブドウのことを学んでPRするためのパンフレットをつくられたり、桃のPRですとか、それから赤磐市の児童支援ということで山陽東小学校への学習支援、それから赤磐市立中央図書館の清掃、10番目としましては花火大会の片づけや磐梨中学校、赤坂中学校の学習支援などの貢献活動に取り組んでいただきました。

総合政策部からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） はい、ありがとうございました。

総合政策部のほうが終わりました。

皆さんにお諮りします。

各部ごとで説明いただいて質問を受けたいと思います。それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、総合政策部が終わりましたので、総合政策部についての質問がありましたらお願いしたいと思います。

ちょっと、ねんじやったら僕から先に言う。

「種まく旅人」のことで説明があって、1,082万1,800円じゃから、数としたら8,394人、これは全国の全部入れた分ですね、これ。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（小引千賀君） 今お尋ねいただきました1,082万1,800円というのは岡山県外……。

○委員長（北川勝義君） 30カ所は何じゃったん。

○秘書企画課長（小引千賀君） 岡山県外の映画館の数です。

○委員長（北川勝義君） 岡山県内、この10というのは何。動員数、5館というのは、上映館というのは。

○秘書企画課長（小引千賀君） 5館というのは岡山県内になりますので……。

○委員長（北川勝義君） 30館というのは何。

○秘書企画課長（小引千賀君） 30館は県外です。

○委員長（北川勝義君） 県外が8,394人じゃろ。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） それが1,082万1,800円じゃと言うたんじゃねん。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。今のを合わせますと、そちらの資料のほうにございますのが、岡山県内の状況で……。

○委員長（北川勝義君） じゃあから、よう最後まで聞いてん。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。申しわけありません。

○委員長（北川勝義君） 1、2、3が岡山県内だけじゃろ。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。

○委員長（北川勝義君） せえで、30カ所というて口頭で言うてくれた30カ所は県外じゃと言うたんじゃろ。

○秘書企画課長（小引千賀君） そうです。

○委員長（北川勝義君） この県外は県外だけで30カ所、足しゃえんじゃな。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そうしていただけますか。

○委員長（北川勝義君） 8,700人を足しゃええわけじゃな。1,000万円も足しゃ、2,100万円ほどが興行収入というこっちゃな。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） 大したことはなかったんじゃな。まあ、わかった。大したことはねえはそれ失礼な言い方じゃ。ほんま大したことねえなと思って。これはもうどっこも上映はやってねんかな。

○秘書企画課長（小引千賀君） 現在、上映は終了しております。

○委員長（北川勝義君） というのは、何でもこういうことを言ようというたら、たしか松田委員じゃったかな、「種まく旅人」の映画があるって、前回のがあるというて、たしか岡山で見られたと言うたときに、大分こっちがするようになってからじゃったと思うたが、期間が。そう思うたら、これまでもうちちょっと。岡山で今度は次をやるけん上映やったんかもしれんけど、どっかそねえなんはねんかな。わかる、質問がわかっとな、今言ようこと。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、今全国的な上映というのは終了してるんですけども、ほかの機会で上映するようなものはないかどうかということでもよろしいですか。

○委員長（北川勝義君） そういう意味で言ようんでもあるんじゃけど。前やったのが、淡路でタマネギのやって、それやってきて、九州でやって、今度は赤磐で、岡山でやるということで、そういうことを踏まえてロケしょうるからということで、ずっとこうやったというん。次の4回目のロケが決まったり何かねんかということ。もしあつたら、そういうことを赤磐のもしてもらえんじゃねえかなと「種まく旅人」というのを聞いたかったわけ。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、わかりました。第4作目の予定は今のところないというふうに伺っております。これで終わりというふうには伺っていないので。

○委員長（北川勝義君） いやいや、終わりとは伺っていない、4作目は決まってねえということやろ。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） わかりました。よろしいです。

それから、さっきの、簡単に言われたんじゃけど、赤磐市のバスが1便から5便までがのうなると、宇野バスが平成30年5月から1便から5便が全てがのうなるというて、これはもうどんなんじゃろうか、ネオポリスだけを回りようからネオポリスはええんじゃということか、どういうことか。結果的にはネオポリス行かんけど、下の医師会病院とか、イズミから医師会病院へ行きようたこの下のとこじゃな、やりようたんが、交通の足が交通弱者はのうなる。これどう考えられとん、市長。市長というんか。なるんじゃというて、これから考えていくんかな。何を言わんとしとるか。情報で5月にのうなるといのはええんじゃ。30年5月31日にのうなるんじゃったら、これからこの総合政策部がどのようにしていくんならという。いや、もうええんじゃと、もう要らんけんやめるんじゃと、これで終わりじゃというんか、ここを新しゅうさせていくんじゃとか、どうするんじゃとかということがあるんですかということを知りたかった。そういう意味です。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○秘書企画課長（小引千賀君） こちらの路線図をごらんいただきまして、上の野間のあたりから市役所のあたりまで別の路線が今運行をしております。松木・下市線とありますが、そちらの幹線の道路につきましては現在も運行ございまして、宇野バスさんのほうにつきましてもそのままその路線を継続されますので。循環バスといってネオポリスの中ですとか山陽団地の中をぐるぐる回られるような路線だけを廃止するというふうには伺ってるんですが、赤字ということで……。

○委員長（北川勝義君） 違うがな、イズミから行くようになってるがな。これは違うんかな、これがのうなると言うたんじゃねんかな、赤磐循環バスが。イズミから行って、白十字のところを通って……。

○秘書企画課長（小引千賀君） 赤い路線と青い路線がございまして……。

○委員長（北川勝義君） どっちな青い路線か。

○秘書企画課長（小引千賀君） どちらも廃止ということでございます。

○委員長（北川勝義君） 3便、4便が赤い路線じゃろ。

○委員（松田 勲君） 3便、4便は……。

○秘書企画課長（小引千賀君） 3便と4便は時刻が変更されていた……。

○委員長（北川勝義君） 赤い路線と青い路線がありますというて、赤い路線と青い路線は何なあ。フリー乗降のために乗れるというて点線……。

○委員（松田 勲君） 行きと帰り。

○委員長（北川勝義君） 行きと帰りということかな、これは。

○秘書企画課長（小引千賀君） 行きと帰りになります。

○委員長（北川勝義君） 循環って行きと帰りねえけど、行きと帰りというそういう意味かな。じゃったら、これがのうなるということは、じゃけイズミからのうなるがなということと言よんじゃ。

○委員（松田 勲君） イズミは今……。

○委員長（北川勝義君） ほかの路線があるけど、この路線がのうなるがなというて言よんじゃ。

○秘書企画課長（小引千賀君） この路線については廃止になります。

○委員長（北川勝義君） 野間まで行きようけどそれはもう野間まで行かんから、ほかのバスが行きようのけええということじゃ。僕、聞いたが今。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） そんなことを聞きようりゃへん。僕が聞いたのは、この循環バスの路線がネオポリスの中の、名前出したら、澤議員がおらんけん、澤議員やこうというたら赤磐市の半分はここじゃ、吉井は10分の1じゃと言うて、こんだけのところ、半分のところの路線をのうしてええんかということ聞きよんじゃ。何か方針はねんかというて。ただ言われて。よう聞いてよ、課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。

○委員長（北川勝義君） 市長も副市長も。こういう路線がのうなりますよというたら、やっぱり市民の足が確保できていくんが不自由になるわけじゃろ。赤字とか黒字とかという話は別で、そうなったときに、便数が減るとかどうなるかわからん、5便行けるか、3便行けるか、赤磐市としてはどのような対策をこれから立てようとしょんならということ聞きよんじゃ。ほかの便があるけええんじゃったらそれでええがな。今ほかの便も野間まで行きよんのがありますからというて。ほかの便じゃのうて、循環しょんがなかつたら困るんじゃねんか、山陽団地が半分から3分の1おって、それだけの困るんじゃねんかということ、それを僕は言ようわけじゃ。そしたら、僕は市長か副市長に答えてもらいてえと思うたら、あなたが答えると言うから、部長でもええ、課長が答えると言うから。野間まで行きよう、そげえなことはわかったら、ほかのバスが行きよんのは、熊山へ行きよんのはわかっとなよ。どうするんならと言うたん。ネオポリスの中はもうええんじゃな、これから。

○委員（下山哲司君） 委員長、ちょっと関連、ちょっとええ。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 循環バスというのは試行運転を3年か何かするというて言うた分とは違うん。もしそれがそうなんなら、説明の仕方が悪いんじゃねんかと思うんじゃけど。認識が

まぜこぜになるが、話を聞きようたら。3年間か何か運転して、ええげにいったら継続するし、おえなんたらやめると言うた分なんか、それが一緒なんか、その辺。

○委員長（北川勝義君） 宇野バスが試験運行やこするもんか。

○委員（下山哲司君） 始めたときの説明がそうじゃった。その期間を引いて、継続してやりようたんか、それともその今期間が来たんか、その辺だけきちっと説明してくだせえ。

○委員長（北川勝義君） 確認。そういうことかな。

○秘書企画課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） どういうことで。はい。

○秘書企画課長（小引千賀君） 平成20年3月に運行開始された後、継続して今まで運行を続けられていらっしやいました。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、試験運行したというて、試験運行かというて聞きよんじゃがな。宇野バスが試験運行できるんか。

○秘書企画課長（小引千賀君） 試験運行ではございません。

○委員長（北川勝義君） ほな違うがな。試験運行じゃと言うけん、試験運行じゃったら、試験運行じゃねえ、試験運行とは違うんじゃと、今言ようる意図が全然違うが。試験運行と違おう。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 最初試験運行をして、試験運行でやれるようなら継続してやるということになっとして20年に継続したんか、それは。

○委員長（北川勝義君） 20年試験運転しょん。

○委員（下山哲司君） いや、今言よん。

○委員長（北川勝義君） 20年試験運転じゃろ。

○委員（下山哲司君） 20年が試験運転。いや、じゃから継続になって何年やって、それで今度はこちらで採算が合わんからやめるんじゃというんか、その辺の説明をしてもらわにゃ、今までしてきた流れの話から全然違うてくるが。

○委員長（北川勝義君） 流れとか、試験運転ということ自体がおかしいんじゃ。宇野バスが試験運転やこうするもんか。

○委員（下山哲司君） その辺をきちっと説明してください。

○秘書企画課長（小引千賀君） 宇野自動車株式会社様がどういった経緯で運行を開始されたかというのはわかりかねるんですけど、平成20年3月に運行を開始されたというふうに伺っております。

○委員長（北川勝義君） ちょっと確認してくれ。

○秘書企画課長（小引千賀君） はい。

○委員長（北川勝義君） 暫時休憩するけ。

松田委員。

○委員（松田 勲君） たしか最初は、合併当時は福祉バスとして回ってたと思います、ネオポリスから山陽団地をぐるぐる。それを途中で宇野バスさんがやらせてくれという提案があって、福祉バスを廃止してこの路線ができたと思うんです。そういう経緯が平成20年のときにあったと思うんです。僕が心配しとんのは、ネオポリスの方が特に足王温泉に……。

○委員長（北川勝義君） 松田さん、質問は。まあええわ。とめんわ、言われ。

○委員（松田 勲君） 足王温泉をぐるぐる回ってたのがなくなって、これが今途中で、足王温泉、社協かどこかが出しているとは思いますが、そういった不便があるというのはずっとあったんです。委員長が言われようたんだけど、心配なのは全くそういう路線がなくなったら、そういったことも考慮した市のバスを出すかどうかという部分が心配なんですけど。

○委員長（北川勝義君） ちょっと松田さん、ええか。

暫時休憩します。

午前10時43分 休憩

午前10時58分 再開

○委員長（北川勝義君） 再開します。

小引課長。

○秘書企画課長（小引千賀君） 先ほどのお尋ねいただきました件につきまして御説明させていただきます。

福祉巡回バスにつきましては、社会福祉協議会が平成11年度から運行されておりました、平成20年3月まで運行されておりました。そのときに、先ほどおっしゃられておられましたように、宇野自動車様のほうが今巡回路線のほう運行されておりますその路線をしたいということで運行され始めましたので、残りの路線につきましては先ほど補正予算のほうで説明をさせていただきました山陽の路線のほうへ振りかえをさせていただいて、市のほうが運行を継続させていただいたという経緯がございます。

○委員長（北川勝義君） だからどうしたん。それが、経緯があるんじゃ、それを言わにゃ、ここでのうなったらどうするんならという話をしょん。まあ、削除、ちょっと言う。……
……
……せえでもネオポリスの足の本当に不自由な東や西の人は困るが。そこらを考えなんたら、これに今すぐ即答せえというのは市長できんと思うけど、今作間部長が言うた交通会議もかけにゃおえんし、いろんなことがあるんで、要望に応えるようにしてあげてください。今よりようせえとか言わんけど、便数は減るんじやろうけど、こうなりゃ。前しようたんが2回かな、2回回りようたんかな。前、覚えてねえ。

- 委員（下山哲司君） ぐるぐるぐるぐるずっと回りようた。たしか。
- 委員長（北川勝義君） 2回じゃのうて、ずっと回りようたんかな。
- 委員（松田 勲君） ずっと回った。
- 委員（下山哲司君） ぐるぐるぐるぐる一日中回りようったんじゃと思う。
- 委員（松田 勲君） バスは1台でしょ。
- 委員長（北川勝義君） 何にしても、社協がするというでも赤磐市がしょうるこっちゃから、結論的には。
- 委員（下山哲司君） 社協がしたって銭は全部赤磐市じゃ。
- 委員長（北川勝義君） じゃけ赤磐市じゃ言よんじゃ。その金が要らんようになるけえという話もしたからな。じゃあけど、今度は遠藤課長、そこをまたせんから、宇野バスがやめましたよ。ほんなら社協でもええわ、赤磐市が福祉バスすぐ行くというようなことはできんのんじゃろ。
- まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） そうです。先ほどちょっと申し上げましたように、交通空白地域とか時間帯ということにならんと市町村有償運送っていうのは今認可されませんので、おっしゃられたように昔合併した当時は社会福祉協議会のほうで足王温泉を中心に日に四、五便ずっと市内を回っておりました。これを宇野バスが循環バスをやるということ……。
- 委員長（北川勝義君） 今度社協でもできんのんか。
- まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） そうです。同じです。やっぱりそれは……。
- 委員長（北川勝義君） ほんなら路線を廃止してもらわにゃおえんということじゃな、宇野バス。
- まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 結局、利用料が発生するということになりますと……。
- 委員長（北川勝義君） 宇野バスが返してくれにゃおえんわけじゃな。
- まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） そういうことになります。ただ、宇野バスが今の循環バスで走っているメインの路線というのは通常の宇野バスの路線になっておりますので、その枝葉のあたりを市としてどういうふうにフォローしていくんかっていうところが中心にはなってくるのが公共交通の肝ではありますとは思っています。
- 委員長（北川勝義君） 作間部長、今言ようる話じゃねえけど、松田さんが言ようるネオポリスの東じゃとか、東やこう行ったら本当に広えが、ずっと行けるのがようなると思うから、市長、そういうことも一緒に考えてもろうてしてもらいてえけどな。
- 市長（友實武則君） はい、委員長。
- 委員長（北川勝義君） 市長。
- 市長（友實武則君） 濟いません。ちょっと整理をさせてください。

この宇野バスから循環バスを廃止という意思を表明されたのが、文書で通知を受けましたのが11月6日でございます。1週間少々しかたっていないというのが現状で、それに伴って市のほうとしてどういう対応をしていくのかという議論はしてまいりました。残念ながら、廃止を前提に廃止した後どうするという議論には至っておりません。今私たちができることをきちっとやろうじゃないかということで、今の方針を申し上げますと、宇野バスのほうから文書で廃止の通知があったので、文書でもって廃止を考え直すような要請をさせていただくということが第一でございます。そして、もう1つには、利用者が極めて少ないということが1つの理由に挙げられている以上、市民に対しては利用を促進していただくようにこれを呼びかけていくことを、残された半年の間にどれだけできるかわかりませんが、最大限の努力をしていこうというところを方針として決定している次第です。

そして、この議会へも協議、相談をしながら、その次の手だてというのはこれから考えていくべきものと考えておりますので、その際には常任委員会の皆様にもさまざまな御意見、アイデアをお出しいただければと思っております。

以上です。よろしくお願いたします。

○委員長（北川勝義君） 総合政策部のこの中に出てねんじゃけど、ちょっと出てねえことをよろしいか。聞きてえことがある。

先言うわ、ある。実はこれのアンケートのことじゃけど、ええアンケートじゃなと思うて見させてもろうて言よんじゃけど。前、2,800件で46.5%の1,304件か、約50%、46%で、このくれえじゃったらええんじゃええんじゃというて言うんじゃけど、あんたら初めから50%返ったらええんじゃと思うて調査しょんかなと思うてな、考え方が。大学の先生がこう言うたんじゃと言うけん、大学の先生がこう言おうとアンケートを100出したら100返ってくるんが当たり前じゃと思うて、僕はそう思よんじゃけど。それは不可能なことかも。せえで、今回回収率、3,000人出してどのくれえを思よんですか、それを教えてください。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長の御指摘のとおり、なかなかアンケートというのは、一つの目安といいますか目標というのが50%程度というのが現実でございます。内容によりましては、興味、関心と呼ぶことができず、残念ながらもっと低いアンケートもございます。幸いなことに50%程度が目標ということには、この市民アンケートについてはお答えを、市民の方に興味を持っていただいているのでというところが今の現状でございます。できますれば何か策を講じてもっと回収率を上げたいとは常々考えてはおりますが、現状ではそういうことでございます。

○委員長（北川勝義君） ちょっとこのアンケートというのは、アンケートは悪いことはねんじゃけど、何かこういうことは失礼な、アンケートの設問じゃ、設問が悪いんかなと思うて。

関心を持ったことを、例えば僕は知らんけど、よう見たことも、AKBでも、あねえなんでもだっとう出ていくんじゃないたら、あれについてはでえれえ書く者もおるが、僕は書かんけど、おるんかもしれんのんじゃないけど。例えばそういうなんもあるんかな、そうでもねんかな。そうでもねえ、あんたらがあるとは言えれんわな、ねえわな、それは。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） できるだけ多くの方に答えていただきたいので、例えばノベルティーとして、例えばですけどボールペンの1本も同封させていただいたり、そういうふうなことをさせていただいたり、あるいははがきの回答日が、締め切りが近づきましたらはがきを1枚送らせていただきまして、ありがとうございます、ひよっともしまだ答えていない方がおられましたらぜひよろしく願いますというようなことをやって、今こんなもんですっていうところが現状なんです。

○委員長（北川勝義君） 何でこういうことを言ようというたら、議会報告会で最初のときはものすげえすばらしい、こりゃ報告会もっと数をふやしてやらにゃいけんと思うて感心した。ネオポリスの方々でも本当に感心した。あとは選挙絡みに係るようなこと、ナンセンスじゃなというて、誰がしてもできもせんようなことを、こけえ日本国政府を持ってこい、つくれというんと同じぐれえなやけくそな話を、やけくそそこまで言わんけど、言われるんで、何ぼ市長候補の落選されたけど、澤さんあなた、澤さんがおってもできんというて僕は言い切ったんじゃないけど。できんと言うたらできんできんと言うなと言うた。

その中で・・・か何か、名前出さん、また削除して。・・・がアンケートしてどうしようかというて、アンケートも配ってあげてくれ、せつかくじゃけんというて配ってもらってしたときに、僕はえかったなと思うて、いろいろ書いてきて、学校教育やこうのことは一生懸命書かれとったから、そういう人にそういう学校教育やこうの書類が行きやあええんじゃけど、そういう人らには行かん場合があらな、悲しいかな。関心のねえ者に来ても書かんけん。何か3,000人の無作為に選ぶというんがあろう。無作為じゃねえとおえんのんじゃないけど、学校関係者じゃとか町内会長とか元町内会長とか指導員しょうるとか、せえから学童支援で交通の見てくれよう人じゃとか、学校の関係にある。それから、スポーツ振興というたらスポーツの、今あるが、体育指導員しょうるとか、卓球クラブでもバレークラブでもそういう代表の世話をしょうるとか。3,000人全部そういうんじゃないよ。2,000人ぐらいは無作為にすりゃええけど、あと500人とか何人ぐれえはそういう人を出してあげてくれりゃ、議会の中でいうたら議会だよりで議長とか副議長だけ出すとか、例えばで。そしたら回答がしやすくなるんかな、商工会とかというの、ちょっと難しいんじゃないけど、もう遅えんかもしれんけど、そういうなんをすりゃ何かふえそうなとちょっと要らんことを思うたんじゃ。

それで、ボールペンの1本でもそりゃやらにゃあ、あねえなふるさとまつりぐれえなときに

風船あげるときはありゃええアイデアで、あのときに風船を子供に、来た者にみんなアンケート書けと言うたらみんな書くで、そりゃ。風船が欲しいというんじゃねえけど、ちょっと楽しみが、何か持たにゃいけんのかなと思うて。ボールペンがええかどうかわからんのじゃけど、何かでもしてあげたほうが。それから、締め切りの1週間か10日前にはがきを出してあげるのはええことかもしれんわな、何ぼか費用が要るこっちゃけど。防災無線出しても聞こえんもんな、聞きょうらんし、時間帯が悪いけん。そこを今ちょっと。

○議長（金谷文則君） J－A L E R Tが鳴ったのみんな気がついてないん。

○委員長（北川勝義君） あったか。

○議長（金谷文則君） あったよ。さっき鳴ったのがJ－A L E R Tじゃったから。

○委員長（北川勝義君） あ、そう。

○議長（金谷文則君） それが聞こえんようなら、こん中の会議で聞こえんような状態じゃあやっぱり……。

○委員長（北川勝義君） 意味ねえわな。

○議長（金谷文則君） 問題があるよね。

○委員長（北川勝義君） そう。あったん。

○委員（下山哲司君） ちょっと、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） その他で聞こうと思ようたんじゃけど、アンケートの件になったから言うんじゃけど、空き家アンケートはどこが出したん。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長のとこじゃろ。

○委員（下山哲司君） よろしい。どういことかというたら……。

○委員（松田 勲君） 産業建設。

○委員（下山哲司君） 建設か。じゃけど、アンケートじゃからちょっと……。

○委員長（北川勝義君） 聞きゃあええ、言やあええ。

○委員（下山哲司君） 住んどの家へ空き家アンケートを出しとる。もうちょっとしっかりしてよ、きのう怒られたが。

○委員長（北川勝義君） 住んどの家へや。

○委員（下山哲司君） 住んどの家へ空き家アンケート出して。というんが、持ち主と住んどの人が違う家があるが。そしたら、住所を持ってこれん状態で住んどの人がおるわけじゃ。別に違反じゃねえわけじゃから。奈良の町会議員やこう大阪おる人が区長して、後援会長しょうる。せえでも通るんじゃから。じゃから住んどの人が親戚のところに住んどの、持ち主で。住んどのって、哲っちゃん、住んどののに空き家アンケートが来たんじゃけどごみ箱に捨ててえたからよと言われた。そりゃまあいうて断りしたんじゃけど、うちの親戚の親戚になるんじゃけど。ちょっと慎重にやってもらわにゃ。

○議長（金谷文則君） 税金やこ払うとんじゃねん。

○委員（下山哲司君） 税金は持ち主が払ようら。じゃけん、ちょっと慎重にやってもらわんと、空き家というのが全部空き家じゃねんじゃから、地区の区長さんに確認とるとかしてやってもらわにや。住んどるところへ空き家アンケートを送っちゃおえんで。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 所管委員会が違いますのできちんとしたお答えができかねるので恐縮なんですけれど、せんだっての空き家の所有者等の意向調査ということで、私どものほうも空き家バンクの関係があったりしますので、ちょっと資料をもらっております。一応昨年度から都市計画のほうで目視でありますとか外観などのそういう判定で空き家ではないかという物件をずっと調査をされまして、その方々に一律にアンケートを送らせていただいたということで、下山委員がおっしゃられたように相当にいろいろと……。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長、送ったところが違うんじゃけ、市長でもええし、総合政策部長でも、委員会でこういう話が出たんで、産業建設のほうにぴちっと今下山さんが言うたことがあったんで、それを……。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 伝えます。

○委員長（北川勝義君） 伝えてください。そういうことで。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい。わかりました、伝えますので。ありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） さっきのアンケートの件なんですけど、僕も委員長言われるようにノベルティーを何かつけるなりしないと、普通の民間のアンケートは必ずあるので、そういったことも考えていかないとと思うんですけど。

実はこの前、うちのおじいちゃんのほうにも来とったんですけど、見たら、過ぎた後に僕見たもんで、ちょっとありやもう過ぎとるがなと言うたんですけど。どうして書かなんだと言うたら、もう見ただけで書きとうのうなつたと言うて、何か項目が多過ぎる。この前秋にやったアンケート、この前出たあの分です。項目が多過ぎてお年寄りにはちょっと、こりやちょっと途中で面倒くさくなってやめるようなアンケートの内容だったように思うんです。ちょっと選択肢が多過ぎて。もうちょっとどういった人をターゲットにというんが難しいんかもわからんけど、どういった人でもある程度書けるようなアンケートにされたらいいんじゃないかなという、もうちょっとわかりやすくて。あとノベルティーをつけるのと。せっかく今報告の中に高校生、瀬戸高の話があったんですけど、そういった若い方の声も総合計画だったら絶対聞かに

ゃいけんと思うんですけど、そういった高校に行って、出向いてるんじゃないかと思ったらそういったところでまたアンケートをとるとか。あと成人式です。成人式、せっかく20歳の子があんなに毎年集まってなのに、ほとんどの方が出ていかれるわけでしょ、もったいないなと思って。20歳になった記念にちょっとアンケートをとってもらおうとか、短時間でも書けるようなアンケート、どうしても聞きたいことを集約してアンケートにしていこうとか。そういった中で総合計画をしていかないと、通常送ってこられたらその世帯主の方が書かれると思うんですけど、偏ると思うんです。家族と一緒に書いて書くということはまずないと思うんで。だから、そういったことも含めて、いろんなところでアンケートをとりながら総合計画に活かしていかないと偏った計画になるんじゃないかと思うんですけど、どんなでしょうか。

○副委員長（永徳省二君） 答弁願います。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） はい、副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） ありがとうございます。

大変参考になる御意見をいただいたと思っております。無作為で選ぶのはどうしても若い方から高齢の方まで意見を聞かなければならないということもございしますが、一方そういう若い方、あるいは市に何かの形で、先ほど委員長がおっしゃってくださった役を持っておられるような方、そういう方に特に御意見を聞いていくというようなことも方法としては大変ありがたいと思っておりますので、今後参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 4ページの移住体験ツアーの実施の件なんですけど、まずこれ参加費用というのがかかるのかどうか、それから宿泊されるようなんで宿泊費用がかかるのかどうか、それから恐らくそうなってくると食事がずっと伴ってくると思うんですが、食事はどうなるのかということをお答えをお願いします。

○委員長（北川勝義君） 遠藤課長。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 濟いませぬ。金額のことを明記しておりませぬ。失念しておりました。申しわけございませぬ。今回のツアーでは、大体どちらの市町村でもこういう移住体験のツアーっていうのは少額を参加費という形でいただくというのが通常でございませぬ。今回は宿泊もございませぬので、大人の方で3,000円、子供さんで1,500円に設定をさせていただきます。永徳副委員長がおっしゃったように、その中に宿泊とそれから道中のお食事が全て入っているということになってございませぬ。

○副委員長（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで総合政策部を終わりたいと思います。

総合政策部を終わるんですけど、お願いしとくのは、これから市民の足に係ることがあるんでぜひ早急に検討されて、宇野バスのこと、さっきのことじゃわからんと思うんで、今後聞いていただいて、市の方針とかいろいろして、交通会議というのもありましようけど、若干というたら言い方が悪いですけど、足が確保できるように交通弱者のことも考えてやってください。

以上です。

それでは、総務部の説明をお願いします。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○総務課長（原田光治君） それでは、総務部の資料の1ページをごらんください。

総務課からは条例改正2件と補正予算を予定しております。

条例改正の1つ目が赤磐市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の改正でして、これは児童福祉法の改正に伴います字句、あと引用条項の整備をするものです。

2つ目の赤磐市職員の育児休業等に関する条例の改正、こちらのほうも児童福祉法の改正に伴う字句、条項整理、また地方公務員の育児休業等に関する法律等が改正されましたことに伴いまして非常勤職員に対する育児休暇の拡充ですとか、あと保育園等申し込んでいますけども入所できない場合に育休の再取得が可能になるなどの条項が盛り込まれたものとなっております。

続きまして、(3)の平成29年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）につきましてですけども、職員人件費のほうがこの12月の補正で人事異動に伴う補正をさせていただいております。全会計で9,248万8,000円の減額、一般会計分としては9,396万円の減額。総務管理費では、前年度予算計上時に予定しておりませんでした職員派遣と、あと育児休暇の関係で3,555万6,000円の増額を予定しております。

ページ変わりました2ページをごらんください。

住民情報システム運営管理事業の補正がございまして、こちら社会保障・税番号制度いわゆるマイナンバー制度にかかわります法改正に伴いましてシステム改修の補正を計上させていただいております。

総務省関連ではマイナンバーカード、住民票等へ旧姓の記載を追加するためのシステム改修、厚生労働省関連では情報連携を行うためのデータのレイアウト、仕様が変更になることに伴います改修、それから（イ）のほうは市単独のものでですけども、子ども医療費助成が次年度から償還給付から現物給付に変更されることに伴いましてシステムの改修費用を計上させていただく予定です。

予算額としましては、その下、歳出のほうは全体で644万9,000円の増額、歳入ではマイナンバー関連の改修費用の歳入になりまして454万7,000円の歳入でございます。

内容の2つ目は、(ウ) マイナンバーの通知カード・個人番号カードの交付手数料、こちら10分の10で国から入ったものをそのまま交付関連事務をしていますJ-LISのほうに払うためのお金になっております。歳出として850万6,000円、歳入で同額のほうを計上の予定をしております。

総務課分は以上です。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、中川課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 続きまして、3ページをお願いいたします。

くらし安全課からまず(1)番、赤磐市大規模災害被災地支援に関する条例の制定について説明をいたします。

目的につきましては、大規模な災害に見舞われた地域に対し支援を行うとともに、被災地の災害応急対策などを行い、市民の共助意識の高揚に資することを目的とするために条例を制定しようとするものです。内容としましては、被災地への物資の支援や防災資機材などの供与を行うとともに、支援活動に従事する職員の派遣を行い、支援を行うときには被災地支援協定を締結しております団体に対しまして連携した支援を行うことを要請することができるようにするものです。

(2)としまして、補正予算について説明いたします。

まず、①交通安全対策事業ですが、カーブミラーの修繕費用を計上予定です。カーブミラー修繕には老朽化による柱の腐食や鏡面の曇りがあり、その都度修繕を行っておりますが、それ以外に交通事故などにより破損することがあり、それにつきましては事故を起こした原因者に修繕をしてもらうのが本来ですが、今年度当て逃げによります破損が例年以上にありまして、修繕料が不足するというので補正をお願いするものです。74万6,000円を計上予定にしております。

②の避難所設置促進事業についてですが、福祉避難所の設置、運営体制訓練実施への県補助金を歳入のみ計上予定です。これは10月29日に行いました訓練に対してで、歳出につきましては当初より計上しておりましたが、県と協議の結果、8月末に補助金の決定がありましたので、ここで補正をするものです。事業費30万円余りに対しまして、歳入30万円を計上予定でございます。

続きまして、最後にチラシをつけておりますあかいわキラリ★安全フェスティバルについてですが、11月23日木曜日、勤労感謝の日の正午から山陽ふれあい公園で「守りたい、大切な命」をテーマとして行います。くらし安全課では交通安全、防犯、消費生活、防災についての出前講座を各地区に出向いて行っておりますが、その全ての集大成となるフェスティバルです

のでぜひとも御来場いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

それと、先ほどJ－ALERTのお話が出ましたので少し説明させていただきますが、今回のJ－ALERT、全国瞬時警報システムの放送につきましては国民保護に関するもので、いわゆる北朝鮮、大規模テロなどについての放送の訓練でございました。これは今回県のほうで行うのみで、いわゆる国からの緊急速報メールの送信は行わないということで、携帯であるとかということには鳴ってはおりません。赤磐市においては防災行政無線、ラップと戸別受信機について鳴っているということで、この庁舎内でも戸別受信機を置いているところでは今回鳴っているかどうかという訓練を行っております。また、この3階におきましては監査事務局と議会事務局の部屋に置いてあるのみで、そこではその音が多分鳴っていたんではないかと思われま。これと同じ訓練が緊急地震速報につきましては11月1日に行われまして、赤磐市ではちゃんと鳴っていたということが確認できております。

以上、総務部からの説明でございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

総務部から説明が終わりました。

皆さん何か質問はありますか。

ちょっと質問じゃねえけど、人事院勧告はどねえなるんかな。

はい、原田課長。

○総務課長（原田光治君） 人勧は今臨時国会のほうで審議中でして、成立の見込みとなっておりますけども、時期的に微妙ということもございまして、現段階では当市としましては3月で条例改正を行うような予定を……。

○委員長（北川勝義君） 3月でええん。

○総務課長（原田光治君） はい、考えております。

○委員長（北川勝義君） 12月じゃなくても、ここじゃのうてもええん。いや、ここでするんかなとちょっと思いうて、出てねえから。人事院勧告を実施すると言ようから、上げるというんじゃから、ここでやっとかにやいけんのんかなと。新聞やこうで、国ができたとか人勧ができたという話じゃのうて、どんなんかなと思うて。3月で間に合うということじゃな、予算があるから。

○総務課長（原田光治君） はい、間に合います。

○委員長（北川勝義君） 内容的なこともええということか。

○総務課長（原田光治君） はい。

○委員長（北川勝義君） 中が、パーセントが、率が違うが、変わってくるが。

○総務課長（原田光治君） はい。

○委員長（北川勝義君） それもええわけか。

○総務課長（原田光治君） 大丈夫です。

○委員長（北川勝義君） それはしとかにやおえんのんじゃねん、予算は、金額は別として。さかのぼってするということか。

○総務課長（原田光治君） はい、そうです。

○委員長（北川勝義君） まあええわ。

それからもう1点、赤磐市の育児休暇じゃ、勤務時間とか休暇はええんじゃけど、育休やこう伴うて一般会計が職員人事の給料、手当いろいろあるんかもしれん。赤磐市の職員だけじゃのうて、保育所も学校も皆一緒じゃと思うんじゃけど、これ、こういうことを言うたらおかしいけど、産休になって育休をとるというたりするのは初めからわかりよんじゃねん。わからんのんかな。僕は妊娠せんけど、妊娠してできて、いつできるんじゃというて、ことし12月にできるが、10月から産休入るんですよというていうたら、それからできて産前産後6週間、7週間か、今、忘れたけど、終わるわな、4カ月終わってその後に育休とるんじゃ、育休とるかというのはその時点でわかるんじゃねん。いつわかるん、この届け出というんが。例えば出産して産休とつとる間に育休とりましようかというんか、どんなんですか。何でこういうこと聞きようというたら、全体的な流れがここで育休や産休で、特に育休で補正が多い、人事異動のあれがあるからどんなんかなと思うて、ちょっと今聞きたかった。どんなんですか、わかりやあ。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○総務課長（原田光治君） この予算の積み上げをする時期が前年の10月ごろということで、その時点で把握している分については盛り込んでいますけども、それ以降にわかったといいますか……。

○委員長（北川勝義君） わからんわな、いつ妊娠するか。

○総務課長（原田光治君） はい。そういった……。

○委員長（北川勝義君） 課長がわかるわけがねえよな、人が妊娠するの。そういう意味のことか。やっぱり前もって、今ごろ子育てしたり育休とるのもええんじゃけど、予算上の動き方がちょっと思うた、全体的に。

それからもう1点、僕も総務委員長じゃけせにやおえんと思うてしたんじゃけど、マイナンバーをつくって何の効果があるんな、ちょっと教えてくれ。ほんま恥ずかしい話、マイナンバーのうてもええんじゃねえかと思うて。結果的にはマイナンバーがあつたら免許証出さんでも住民票とるとか、印鑑証明でも何でも総括的にできななら、何かマイナンバーがあつても意味ねえような気がして、何か。いつもかばんの中に入れて歩きようんじゃけど、何か意味ねえような。こういうなんもやつたら、マイナンバーつけたら、今回でも850万円歳入が入る、全額業者へ出ます、業者のためか、思いつきで何かされようような気がして。ちょっとわからんのんじゃけど、何かあるんかな、効果が。

○委員（下山哲司君） きょうの時間予定は。

○委員長（北川勝義君） 時間予定、1時ごろまでには終わります。飯は出ません。

○委員（下山哲司君） 続けてやるん。

○委員長（北川勝義君） はい、やります。皆さん、今下山委員が途中で言われたんじゃないけど、僕も言おうと思うんですけど、昼食をとっておりません。1時ぐらいまでで終わりたいと思っております。昼食なしで休憩も随時いかれる方は休んでいただければいいと思いますんで……。

○委員（下山哲司君） 上程の分は本番でやりゃあええんじゃないな。

○委員長（北川勝義君） どんなんかな。言ようことがわからん。

○総務課長（原田光治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 何の効果があるんかな。赤磐市だけでも率先して、例えば住民票とるんやったらマイナンバーでええですよとか。免許証でええですよというけえ、免許証を出さなきゃおえん。悪いと言よんじゃねんじゃけど、どんなん。

○総務課長（原田光治君） 現在県内の市町村でも少しずつ取り組みが始まっておりますけども、コンビニにおける住民票ですとか税の証明とかの交付サービスが今後拡充されていくものと考えております。赤磐市におきましては今検討中なんですけれども、そういったことのサービスだったらコンビニ交付だったら全国どこのコンビニでも……。

○委員長（北川勝義君） 僕が、課長、言いてえのは、僕は免許証を持つとるし、たまたまつくろうと思うてつくったんじゃないけど、ほかじゃついたらつくらんでもええわと思うて、関心がねえから、つくっとかじゃおえんと思うてつくって、そしたら何らかの、市役所に来たら、市役所やったら、例えばこんなことあっちゃおえんので、マイナンバーを出した者は順番待たずに早うできるとかな、例えばの話じゃ、10円安いとか、例えばの話、書かんでもええとか。マイナンバーを出して一々また書きよる。マイナンバーでも印鑑登録でも書きますがな、例えば住民票でも、それ書かんで省けるとか、何らかのことがなかったら、マイナンバーはそういうことを意図しとんじゃねんか。マイナンバーを出したら自動的に、機械を最終的にセットしたらマイナンバーこれをかちやっとならしたらもう住民票ができてくる、書かんでもわかるということにしてあるんじゃろ、最終的な目標は、今すぐ整備できんけど。それがいつまでたっても。赤磐市ではマイナンバーができた、免許証もええんじゃけど、できたらマイナンバー普及させよんじゃろ、国の制度で。普及させようらんで、やめよんじゃねんじゃろ、足引っ張りよんじゃねんじゃろ。普及さすんじやったらマイナンバーを持ってきてくれた人に何かつけちゃれとは言わんけど、何らかのアクションとか広報でもマイナンバーをしましょうというのを出すべきじゃねんかということをお願いしたかった。業者のためにお金をつけて、100%もろうたけ100%こっちへ持ってこにや意味がねんじゃねんかというて。たまたま受付で言うたら、ここもあつたけど、本庁もあつたけど、受付に行ったら免許証を見せてく

ださい、免許証ばあ、これを持っとんじゃけどおえんのかこれじゃと言うたら、免許証でよろしいと言うから、ほんなら意味ねえ、免許証を持った者は要らんのじゃねんかという。

税務署でも、要らん話になるけど、確定申告するときに電子申告したら早うなったり、優遇があるが、手書きでいって申請しようるより。じゃから、それを出して推進するには、マイナンバーを出したら、例えば、こんなことあっちゃおえん、住民票が5人並んどきゃ、はい、マイナンバーの人は1番に来てくださいというて、ETCと一緒に走りょうりゃマイナンバーでぴっとこういけるように、例えばというようなサービスがあつたら普及するんじゃねんかというのが言いたかった、そういうことは考えてねんかということと言いたかった。赤磐市じゃから、独自じゃから、市でもできることが何らかあるんじゃねんかというたら、広報もあろうしということと言いたかった。今後検討してください、課長。こねえことで時間をとりょうたらいけんけん。ちょっと今そう思うたんじゃ。

それからもう1個でこれが大事なこと、カーブミラー、修繕、どこがどうなっとん。ようけようけ要るというて、74万6,000円、どこな、ちょっと教えてん、どういうことで。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○くらし安全課長（中川裕敏君） この74万6,000円につきましては、来年になって1月以降不足したときに修繕費として、どこというのはこれには上がっておりません。今まで使った金額につきましては、市内一円で今年度特に……。

○委員長（北川勝義君） 当てたりというのが出たろ、さっき。当たったりして修繕がどうというて言うたろ。僕が車で当てたら、自転車で竹でも持って当てたら、僕が直さにゃおえんのんじゃねん。

○委員（大口浩志君） 当て逃げ。

○委員長（北川勝義君） 当て逃げやこうあるんかというん。あるんかな。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 当て逃げが今年度特に相当数多く、自前で直るようなカーブミラーが曲がったぐらいの、向きが変わったくらいはいいんですけど……。

○委員長（北川勝義君） トラックか、ほんならやっぱり。

○くらし安全課長（中川裕敏君） ガードレールがわりになったような形跡があるものもあるんですが、逃げたというようなものも今年度発生しております。当然赤磐署へは確認をして事故報告等も確認しますが、出ていないということで市での修繕をしております、道路管理者としての。

○委員（松田 勲君） 何件。

○委員長（北川勝義君） 何件あつたん、ことし。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 今年度20件ほどの修繕している中で……。

○委員長（北川勝義君） 修繕も車が当てた、当て逃げじゃねん。当て逃げかな本当に。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 当て逃げです。

○委員（下山哲司君） なんでもげたかわからんのは当て逃げじゃ。

○委員（松田 勲君） 当て逃げは何件ぐらい。

○くらし安全課長（中川裕敏君） 修繕が20件のうち10件足らずが当て逃げです。

○委員長（北川勝義君） 当て逃げもわからんわな、どうなっとるか。わかりました。それを聞いたかった。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ終わりたいと思います。

続きまして、財務部の説明をお願いします。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、小坂課長。

○管財課長（小坂憲広君） 財務部からは管財課から2件報告させていただきます。

まず1件目です。資料1 ページ目をお願いいたします。

平成29年度一般会計補正予算（第5号）についてでございます。

こちらのほうですが、前回の総務文教委員会において報告させていただきました熊山工業団地内におけます普通財産の土地の株式会社テイカへの売却に伴うものであります。歳入予算998万7,000円の補正予算を上程する予定にいたしております。2ページ目に再度位置図のほうをつけさせていただきました。こちらのほうも御参考に見ていただけたらと思います。

続きまして、2番になります。本庁舎等整備調査業務の進捗状況について載せております。

資料3 ページになります。

現在耐震性の向上及び行政機能の効率化及び利便性の向上を図るため、本庁舎と旧消防本部の庁舎の建てかえまたは改修に向けた総合的な調査検討を行っております。主な業務内容としては、耐震診断及び補強計画の策定、それから本庁舎機能の再配置計画、本庁舎施設整備計画でございます。

現在までに建物、電気機械設備等の劣化調査を行いました。10月にこちらのほう行っております。本庁舎におきましては、窓周りのクラック及びさびの汁、それから一部外壁タイルの浮き、それから3階ベランダの日よけ部の外壁におきまして内部鉄筋のさびにより爆裂し剥落のおそれがある。それから、壁、天井からの雨漏り、床タイルにクラック、電気設備の配線、配管の経年劣化、換気設備の雨水浸入、配管の経年劣化などが発見されました。

それから、旧消防本部におきましては、外壁モルタルの浮き、クラック、屋上ホース干しのスラブの爆裂により剥落のおそれ、将来的に使用しないのであれば全面撤去の必要性がありと。それから、外部、内部仕上げの劣化が著しく、躯体のみ残り全面的な改修が必要。電気機械設備ともに器具配線の著しい劣化、使用する場合には配線、配管の新設が必要。それから、

1階機械室に雨水浸入があり全面改修が必要などが報告されております。

また、コンクリートの中性化調査につきましては、本庁舎、旧消防本部ともに中性化は進んでなく問題はないとの結果が出ております。

続いて資料4ページになります。

本庁舎機能の再配置を計画するに当たり、まず職員からの現在の庁舎の課題についての意見を集め現在検討を進めております。

それから、次の3番の本庁舎施設整備計画としまして、今後は現状の調査をもとに建てかえまたは耐震補強による修繕の概算工事費、工程等を検討していくということとしております。

今後の進め方につきましては資料の4番に示させていただいております。設備を含む補強計画、それから施設整備計画など、こちらの表に載せている予定で進めていくこととしております。

財務部からは以上でございます。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 申しわけございません。資料のほうは本日出しておりませんが、口頭で報告をさせていただきたいと思っております。

桜が丘西5丁目の土地の取得ということで、大和ハウス工業さんより赤磐市桜が丘西5丁目11番2号ですけれども、これが中央ショッピングセンターに隣接する南側の更地ということで、2,942平米ございます。これを市が希望するのであれば市の遊休地との交換に応じたいというお話がございます。

これにつきましては、市といたしましても桜が丘ショッピングセンター跡地については桜が丘の中心部に位置する重要な資産と認識しており、今後魅力づくりのためにこれを受け入れるように連合町内会と折衝したいと考えておるところでございます。具体的な資料等につきましては、今後順次総務文教常任委員会へもお示しいたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 財務部のほうから説明が終わりました。

何か質問はありませんか。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） 3ページの本庁舎の整備計画なんですけど、これ3月末までに委託しているということは、建てかえなのか補強なのかというのはその後決定して、6月の定例議会で出てくるというふうに考えていいんでしょうか。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、小坂課長。

○管財課長（小坂憲広君） 今回の調査の委託のほうですが、3月に調査の報告書をまとめていただくような業務内容になっております。それをもとに建てかえまたは補強による修繕、どちらがいいかとかというのをその後に検討していきたいと考えておりますので、6月の議会に出るかどうかというのは今の時点でははっきり申し上げられません。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

永徳委員。

○副委員長（永徳省二君） もしかしたら、もうちょっと先延ばしというか、9月とかになる可能性もあるということなんですね。

○管財課長（小坂憲広君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○管財課長（小坂憲広君） 結果が出ましてからの検討になりますので、その後、いつの議会に出るかというのはちょっと今の段階では何とも言えないところでございます。

○委員長（北川勝義君） 何を言よん。3月に報告があるけど、3月早々には報告があるわけじゃろ。そしたら、3月、4月、遅うて6月には報告できようがな。そげえな、3月議会に報告せえというんでも、年度内じゃから大体このようになってるといって、3月定例会でこのようになってるといってのを言わなんたら、今の答えじゃ、小坂課長の言ようるこっちゃったら、当初予算つけれんよ。そのときには、こういう考えじゃからやらせていただきてえとか、せめて、もしなりやできんけど、そのとき、当初わからなんたら、最悪でも6月議会のときには補正予算、補正させてもらうとかせなんたら前にいかんような話になってしまうんじゃねえかということ言いたかったんで。そういう曖昧な答え、課長ちょっと納得できにきんじゃけど。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 済いません。この調査を今年度6月の補正につけさせていただいて実施しておるところでございますけれども、松田委員さんからもいつごろ結果が出て、どういう判断になるんならという御質問もありました。そのときに早かったら3月というふうに述べさせていただきましたけれども、今委員長おっしゃいましたように、この調査の結果を受けてできるだけ早い時期に出させていただくということで、当初予算にその結果の工事費でありますとか設計でありますとか、そういうことは出すのはちょっと無理ではございますけれども、補正になるにしてもできるだけ早い時期、ですから6月につきましては何らかの結論といえますか、それを出していただく資料を提出させていただきたいというふうに思っております。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○委員（松田 勲君） さっき直原部長が言われた桜が丘の件なんですけど、これもう1回、ちょっと聞きそびれたんですけど、二千五百何平米というのは今の駐車場のあたりのことを言いますか。

○委員長（北川勝義君） 概略の図面があったろう。

○財務部長（直原 平君） はい。

○委員（松田 勲君） どこまでを言うんかなと、その建物の全部じゃないですよ。そこら辺をちょっと教えていただきたい。

○委員長（北川勝義君） 図面を配付しちゃって。

○財務部長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） 場所の図面はお配りさせていただきたいというふうに思います。昨年、一応5丁目のところ、6丁目と8丁目を交換させていただきました。いきいき交流センター前の駐車場、これを市のものとして取得をさせていただいたその南側の土地というものでございまして、11番2号というところでオグラさんがやとられる施設の前のところ。一段ちょっと落ちている場所……。

○委員長（北川勝義君） 早え話が、市長に言うんじゃけど、あそこの交差点改良とかショッピングじゃな、今あったところを全面的に改修して、市がそこを買い取るというたらおかしいけど、取得するために順次持っていくよという、そういうことの方を言うてもろうとかなんだら、わかるとる人はわかるとるけど、わからん人はわからん。何でそんなところをちよろちよろちよろちよろ順番に買うてくるんならというのがある。直原部長、そこらは部長が言うたらおかしいかも、そこんところのちょっと説明があったほうがええかなと今思うた。

それから、地図はこれから配らせます。それから、場所については、今言よんのが、大和はここどうですかというて言われとんで、ただ大和のほうへこっちを出しましょうというのは大和さんがこれがええとて言てねえんで、まだ確認ができてないんじゃ、ここがよろしいというのはできてねえ。産業建設のほうがりよんで、都計がりよんで、できてねえというんで、そこまでできてねえのにここでこうですよというのを出したら、また場所が違うたらというてなるんで、決まるまでということ、口頭だけでは言うてほしい。

○委員（松田 勲君） 場所がわかったんであれなんですけど、そこは地元の方がトラックをようけ置いてらっしゃるんです。だから、そういったこともちゃんと移管されるときにはちょっと交渉に入れといて……。

○委員長（北川勝義君） トラックやこう置いとるか。草が生えとるところじゃねん。

○委員（松田 勲君） 草が生えとんじゃけど、トラックもいっぱい置き場になつとん。

○財務部長（直原 平君） 車かなり置いてあります。

○委員（松田 勲君） かなり置いとん。いやいや、大和さんと協議の上で置いてるはず。

○委員長（北川勝義君） それは大和がするんじゃないけ。

○委員（松田 勲君） 貸しとんじゃと思うんじゃないけど、その辺のこともきちっとした上でしてください。お願いします。

○委員長（北川勝義君） わし通ったけどなかったような……。

下山委員。

○委員（下山哲司君） これは住宅地にならん土地じゃな。大和が手放すということになる。宅地になるんじやったら大和が自分とこで使うんじゃないけ。

○委員（松田 勲君） 最終的には。

○委員（下山哲司君） なんの。

○委員（松田 勲君） なるような場所。

○委員（下山哲司君） 場所じゃなしに、最初の申請したときのあれが宅地を出してねんじやろ。

○委員（松田 勲君） 商業施設。

○委員（下山哲司君） 施設じやろ。施設じゃなかったらおえんのじやろ。

○委員（松田 勲君） 商業施設だから何でもできる。

○委員（下山哲司君） 宅地にもなるん。

○委員長（北川勝義君） もちろん宅地。

○委員（下山哲司君） だったら自分のところが売ろう。

○委員長（北川勝義君） まだ図面できんの、コピー。そんなわけのねえコピー。

結果的には今言ようる、そこんところ全体を赤磐市が取得して改良とかやっついこうというこっちゃから、これは賛成していかにやおえんのじゃけど、そういうことを先に言うてもらわなんたら、前のときに言うたけど、前のときに議員さん、このメンバーだったかな。

○委員（松田 勲君） ちょっと違う。

○財務部長（直原 平君） 前の交換ですか。

○委員長（北川勝義君） 違おう。

○財務部長（直原 平君） 違います。

○委員長（北川勝義君） じゃけん、そのときには説明しとるけど、今回、絶えず言ようるが、おめえらずと10年前のことは全然知らんというてええかげんな話で、市長、これ大事な話なんじゃ。前のことはこうだったというのを把握してやってもらわなんたら、議員さんもこけえおる人、メンバーも違ったり、新しゅう議員になられた方は知らん者もおるわけじゃ。あんたら委員会じゃけずとと同じこといきようるような、メンバーが違ったらわからん、さらじゃから、実はこうこうで、市長のほうからでもこういうことの計画があつてこうやりてえからこうやっついとんじやと言うてもらわなんたら、これだけ立て板に水の平君がおるのにそ

れ言わにやおえるもんか、おめえ。ちょっと今そう思うたんで。わかりにきいかなと思うて。実際そうじゃろ。

○委員（下山哲司君） ちょっと1つほかの。

○委員長（北川勝義君） 先に言うて。

下山委員。

○委員（下山哲司君） この今のあれを見たら、施設整備計画が2月じゃろ。調査報告より先に施設整備計画が決まってしまうん。これ見たらこねえに思える。

○委員（大口浩志君） これは、これだけやったらこれぐらいかかるということで。じゃからそれを見て検討してくれということ。

○委員長（北川勝義君） 直原部長。

○財務部長（直原 平君） 済いません。そこへ今後の進め方ということで書かせていただいております、3番の業務内容、これにつきまして部分的にどういうふうにするかというふうにして書いておるところでございます、今10月に3ページの劣化調査の報告書の提出がございました。それにつきましては先ほど報告したとおりでございますけれども、それを受けまして4ページの補強計画、それから施設整備計画、最後の調査報告書が出るということでございます。ですから、(2)番、(3)番、それぞれ庁舎の配置計画もやりますし、本庁舎の施設整備計画も建てかえはどうだろう、それから耐震についてはこうですというものが出てくるということでございます。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 前から言よんじゃけど、仮にこれは今の庁舎だけの調査になるんじゃろうけど、そうでなしに、例えの話よ、これを建てかえらなったら、仮にちょっと赤坂の近いところへ行ったら赤坂の支所やこう要らんようになるが、斜め向こうに行きやあ熊山も要らんようになるが。そういうものの大きい考え方の中で一部なんか、もうここだけのことを考えての考え方なんかというのを前から質問しよんじゃけど、全く、前の回答は夢のあるというて1本で終わっとなんじゃけど。もう少し、一部分だけの物の考え方じゃなしに、こういうときにはこういうような考え方も含めたようなやつを示してほしいんよな。

じゃから、ここで改修したらどんなメリットがあるんか、新築してあれしたら将来的にどういうメリットがあるんか、そういうなのも示してもらおうというのが計画じゃと思うんですけど。その辺の大きい考え方で、前にも言うてるように、これはこれでその後そういうことを考えるんじゃというんならそれで結構なんじゃけど、ここの庁舎だけのことをどねんかするだけの考えなんか、その辺だけ答えてほしい。

○委員長（北川勝義君） 直原君、市長にもお願いしとる。さっきのこれと一緒に話なんじゃ、今言ようことは。僕らは合併してどうこうというて、どこがええとか悪いとかと言よんじゃねん、山陽こけえあって悪いとかと言よんじゃねえ。今既成の事実になって、山陽だけ、

修繕や改修は別よ、大規模改修は、建てかえということになったときは、こけえ建てますよ、この辺に建てますよ、そこらじゃから、こういう計画書を立っても、これはこれで出してもらやええ、調査して出してもらや。その中で議会の議長にも申し入れて、庁舎建設になるんじゃないら建設、大規模改修なら大規模改修とか、新築のほうがちょっとあれが違うかもしれんけど、そういう検討委員会、特別委員会をつくってもらわにやおえん。結果、備前市が同じことをやりようるわけ、なったのやめて、なってやるけん、議会なるから。そうせなんだら、今下山さんが、別に下山さんと合わせようたら気持ちが悪いんじゃないけど、赤坂でも今言うたら、赤坂要るまあというて、要らんという意味じゃねんじゃないけど、熊山でも。

例の話、農協が、これ反対しようる者も、反対はおらんじゃけど、なかなか実施してねえけど、試験場のところに振興センターができればその近くへ農協も一画いただきてえと、土地を取得して、そして山陽基幹支店をつくりたいと、物流倉庫もつくりたいと、そしたらその土地は買わせていただいて使用させていただきたいと、市と一緒に。そうすれば山陽基幹支店もいいと、熊山のほうもいいと、赤坂も持ってこようと、物流倉庫もあつたら開発できると、大体中心的とか、山陽というたら当然ここにいかにおえんのんじゃないけど、あの辺までいこうというのが、その辺が中心になっていくんじゃないか、中間的になるから、今下山さんが言うたように、あとはいらわんでもよくなるということ、吉井だけはちょっと離れすぎとるから、吉井は吉井で残すというようなことが農協の総代会で3構想、備前、和気、赤磐、瀬戸も入れた中で分けた体裁でやっていきよんですよ。そういうなんを赤磐の中でも、もし新築するとか、これが新築はしないと、大規模改修するんじゃないと、そうした場合にここをやるんじゃないと、ほな赤坂とか熊山、吉井はどのような今度は改修の仕方をするんならというの、全体の特別委員会とかで示してもらいてえということ、今下山さん言ようる。僕もそれを思うとんで、市長もわかっと思ふんじゃないけど、どこまでやるか、大規模になるんか新築になるんか、まだ答えが出てこんのに先先できんかもしれんけど、そういうこともあるんで、検討してもらいてえと思うとんで。そういうことを踏まえて、市長、考えがあつたら、言えれるところまで言うてください。

ついでに、できたらこれも兼ねてちょっと言うてくれたほうがええんじゃないけど。

○市長（友實武則君） そうですね。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） ありがとうございます。

順番に、まず桜が丘西5丁目の土地のことについての現在の状況、考え方等について少し私のほうから説明させていただきます。

西5丁目の土地、皆さん御存じのように中央のショッピングセンターの跡地と申しますか施設が建設されている土地を含めて大和ハウスが所有している土地を順次赤磐市のほうで入手して、この中央にふさわしい、市民の皆さんが喜んでいただけるようなランドマークになるよう

な施設をここに設けていきたいという思いをもって動き始めたところでございます。しかしながら、この旧ショッピングセンターの土地、施設については区分所有権が設定されておりまして、現在3者が所有権を有しております。1つは大和ハウス工業が100分の98を有しております。残る100分の1ずつを一般の方々が2名ないしは御夫婦で、正確には3名ですけども、持っておられます。

その大和ハウス工業については、ここの権利を放棄して市の方針で協力するという表明はいただいておりますけども、2名の方については了解をしたという状況ではございません。ただ、何度も何度も協議をさせていただいて、姿勢も少し変わってきております。この中心部分をどういう土地利用をこれからしたら市民の利益に供することができるかという議論を始めてもいいという了解はいただいたところでございます。

そういった中で、今回図面をお配りしておりますが、5丁目11番2号、ここは大和ハウスが単独で所有している土地でございます、ここの土地も昨年の交流センターの前の土地と同様に赤磐市のほうで手に入れさせていただいて、今度はいよいよ本体であるショッピングの跡地のところについても協議を進めていく、そして同時に市民等とここの土地利用について議論を始めていきたいと、このように考えてるところでございます。

そういった中で、今回大和ハウスと5丁目11番2号、これの協議が調いつつあるということで、委員会のほうにも御報告させていただいて手続を進めていきたい、こういうことでの報告でございます。

それから、庁舎のことについての考えでございます。

これまでもここの本庁舎についての考え方を協議、報告もさせていただいております。この本庁舎について、まず耐用年数でいいますとまだ10年から20年の耐用年数が残っている建物でございます。それから、今調査をしているのは、耐震診断を以前にした結果によりますと現状では大規模地震についての耐震性を有していないという答えが出ております。今回の調査では、この耐震診断の結果を受けてこの耐震補強等によって大規模地震に対して耐力が十分になる改修ができるかどうか、こういったことを検討し、そして耐震性を有するように改修するための具体的な工法とはどういう工法が存在するか、そういったことを今回の調査で明らかにするとともに、今度は庁舎の機能として、例えば床面積等が今の本庁舎の機能に十分であるかどうか、そういったことを調査しまして検討します。これがいずれも現状では不可能だということになれば、今度は建てかえという計画に進んでいくものというふうに思っております。

そういったことで、現在の調査検討の経過報告を今させていただいたところでございます。きょうの説明にありましたように、調査が進むとこのあたりが少しずつ明らかになってまいりますので、その際にはまた委員会のほうへ御報告をさせていただこうということでございます。

私のほうからは以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか、下山さん。

暫時休憩します。

午後0時2分 休憩

午後0時4分 再開

○委員長（北川勝義君） 再開します。

これについて質問はありませんか。

ちょっと僕1個、この間は何じゃろうか。名前、固有名詞出したらおえんけど。工事しようとこの間のとこ。

○委員（松田 勲君） 施設です。

○委員長（北川勝義君） それは知っとる。その横のとこのこれを言よん。この間が。草ぼうぼうになっとる、これはどこのでということを書いたかった。

○委員（松田 勲君） 何でそれが入ってねんかなと思うたんよ。

○委員長（北川勝義君） そうそう。それは例えばオグラさんそこへ売るんかという、それはそれでええんじゃ、売るのは売ってええんじゃけど、どんなんかなという。

○管財課長（小坂憲広君） こっち側ですか。

○委員長（北川勝義君） 自分からいうたら、そうこっち側じゃ。

○委員（松田 勲君） 右側のオグラさんとの間。

○委員長（北川勝義君） 右側の、オグラさんのほうへひつついて。間。それはオグラさんが買うのはええんじゃ、買やあ。

○市長（友實武則君） 駐車場になっとるところですよ。

○委員長（北川勝義君） 駐車場みてえに、これはオグラさんの駐車場か。

○委員（松田 勲君） いやいや、駐車場の手前よ、これまだ。

○委員長（北川勝義君） 手前じゃな、まだ。草ぼうぼうになっとる、それで僕草ぼうぼうじゃという話をしようたん、せえで。見てきたから。

○委員（下山哲司君） ちょっとのりじゃろう。

○委員長（北川勝義君） のりじゃねえ。

○議長（金谷文則君） 再開しとるんじゃろう。

○議会事務局長（奥田吉男君） 再開してます。

○委員長（北川勝義君） そこの部分。オグラさんはこっち側じゃろ。草が生えてねえところの、白え。

○委員（松田 勲君） 草のとこじゃろ。

○委員長（北川勝義君） 草のとこを言よう。ちょっと間があいとるが、こんだけほど。

○委員（松田 勲君） 何でそこを残す。

○委員長（北川勝義君） そう、それを今、オグラさんが買うんじゃたらしょうがねんじゃ

けど。

○委員（松田 勲君） 予定があったっけ。

○委員長（北川勝義君） これを言ようる。わかりようるか。

○委員（大口浩志君） わかる、わかる。

○委員長（北川勝義君） ここを言うたん。

○委員（下山哲司君） このことじゃろ。

○委員（大口浩志君） このこと。

○委員（下山哲司君） オグラのとは全部大和ハウスじゃからな。

○委員長（北川勝義君） じゃあ。借るんか、そこんところをな。

○委員（下山哲司君） オグラが施設すると言うたら、大和ハウスが売るんじゃけ。

○委員長（北川勝義君） じゃけん、その話それがあるが。

はい、直原部長。

○財務部長（直原 平君） ちょっと今すぐにここの所有者等が確認できませんが、調べさせていただきますので。

○委員長（北川勝義君） 大和なんじゃ、そこの持ち主は。うちはこれでちょびっと切れるが、切れてもええんじやなということと言ようるわけ。一体的なというんが切れるがな。市長、一体的なというのが、切れよう、ここが、ええんかということと言ようたわけ。

○委員（下山哲司君） こういうふうになる。

○委員長（北川勝義君） じゃからちょっと切れるが。オグラさんが買うなら買やええんじやけど。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。市長。

○市長（友實武則君） 濟いません。今のお尋ねの土地ですけども、ちょっと今所有者あるいは現状の土地利用、ここで把握できておりませんので、ちょっと時間を与えていただければすぐ調べて御報告させていただきますので、よろしいでしょうか。

○委員長（北川勝義君） よろしい、ほんなら。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで財務部を終わりたいと思います。

次の委員会ぐらいまでには決まるような、替え地もわからあな、直原部長。次の委員会ぐれえにゃわかつろう。

○財務部長（直原 平君） 替え地につきましてはまだこれからということ……。

○委員長（北川勝義君） 違う。次の委員会ぐらいまでには……。

○財務部長（直原 平君） わかり次第、はい。

○委員長（北川勝義君） わかり次第のときでええんで、ぴちっとそれも踏まえて、市長は現在の土地利用のことを言われたんで、それも見てからぴちっと回答をください。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 濟いません。昨日の産業建設常任委員会でもこの件を説明させていただいて、現在考えられている交換の候補地ですけども、これも昨日御報告させていただいております。これは、8丁目にあります山陽北小学校の西側にある旧グラウンドの土地でございますが、ここを第1の候補地として協議をしているという御報告をさせていただいておりますが、これで決定というわけではございません。きょうの常任でも同じ情報提供をさせていただきます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 市長。違う、違う。そんなことを言うたんじゃねんじゃ。12月のときぐれえまでは、先ほど言うた替え地が、今言うた山陽北小学校があるというんで、決まってから出しても、それまでにだったらわかつから、この現状のとも違うとんが、こうなつたんのがわからんから、さっき言うた、これも踏まえて市長は早え時期に現地の土地利用を見てから言いますというて言われたんじゃけど、そう慌てんでもええから、来月の次の委員会するときでもそのときに報告してくれたらよろしいというて。また言うてあやふやじゃのうて、今議長が言われた話をとるんじゃねえけど、産建に言うつたのと違うつた、総務で違うつたのうて、見解を一緒にして答えていただきたいということ。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） わかりました。また事後の常任委員会のほうへ確定情報として御提案できるよう努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） これも別にうちが欲しいというんじゃのうて、オグラさんが要るんじゃったら、隣じゃからしてあげりゃあ、企業誘致と一緒にじゃから、やってもらやあええと思う。ただ、僕間があいたらどねんなるんかなとちょっとそう思うただけで。

○委員（松田 勲君） 中途半端。

○委員長（北川勝義君） 中途半端なおかしげな、相手も困ろうしと思うて。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、財務部はこれで終わりたいと思います。

続きまして、教育委員会のほうをお願いしたいと思います。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会の資料をお願いいたします。

教育委員会からは12月議会への上程予定議案ほかでございます。

資料1 ページをお願いいたします。

平成29年度赤磐市一般会計補正予算（第5号）についてでございます。

12月議会に上程予定の補正予算につきまして御説明のほうさせていただきます。

教育総務課から3件の補正についてお願いをさせていただくものでございます。

まず1件目は、繰越明許費についてでございます。

6月補正でお願いをいたしました吉井中学校プール新築工事の工期が7カ月程度見込まれるため、年度内に工事を完了することが困難であり、また適切な工期設定により入札に付する必要があることから、このたび12月議会において繰越明許費の議決をお願いするものでございます。繰越額は施工監理委託料500万円、工事請負費1億4,000万円でございます。

続いて、2件目は、人事異動等により、歳出、1、職員人件費4,511万6,000円の減額補正をお願いするものでございます。主な減額理由といたしましては、教育総務課1名、給食センター2名の職員数の減、また幼稚園教諭8名の育児休業実績見込みによる減額などによるものでございます。

資料2 ページをお願いいたします。

続いて、3件目は、平成30年度に特別支援学級の増が見込まれる山陽小学校1クラス、豊田小学校1クラス、桜が丘小学校3クラスについて、新年度の4月から学級運営がスムーズにできるよう年度内にエアコン設置工事、備品購入などができるよう費用について補正をお願いするものでございます。

②電算管理運営事業152万9,000円の補正につきましては、支援学級へのLANケーブル配線設置工事、またその支援学級の先生方が使われますノートパソコン等の購入費でございます。

③小学校費の一般管理事業507万6,000円の補正につきましては、支援学級で使いますテレビ、ホワイトボード、整理棚などの備品を購入するものでございます。

補正予算の関係につきましては以上でございます。

引き続きまして、教育委員会資料の2、その他の案件につきましてでございます。

まず、教育総務課から高校等通学補助について検討状況を報告させていただきます。

教育委員会資料のほう、3ページをお願いいたします。

本日は検討中の制度化に向けた方針案をお示ししております。現在6番目にあります補助要件について、支給基準となる対象地区、対象となる交通機関、対象区間や補助要件などの検討を進めております。少し御説明をさせていただきます。

6の1、対象地区につきましては、補助要件で対象が絞られますが、市内全域を対象としたいと考えております。

次に、②対象の交通機関につきましては、路線バスにすると実績に基づいた補助交付ができ

ますが、地域によってはバス路線の有無や通学時間帯に合わせた便数が少ないというデメリットもあり、また路線バスを問わない場合は、路線バスのほか保護者の自家用車による送迎なども含め幅広く対象とすることができます。

4 ページをお願いいたします。

次の③対象区間につきましては、始点と終点の検討でございます。始点につきましては、対象交通機関をバス路線に限定した場合は最寄りのバス停になりますが、交通機関を問わない場合には自宅からにするのか、自宅のある地区にするのか、また小中学校にするのかを決める必要などがございます。それぞれにメリット、デメリットがあると考えております。終点につきましては、市境もしくは赤磐市内から近い最寄り駅、また高等学校までの3項目で検討をしております。

④の補助要件につきましては、上限、下限の設定をすることにより対象者が限定され、限られた財源の中で継続的に支援ができるものと考えております。さらに、所得制限などを設けて低所得世帯への補助の交付も検討課題であると考えております。

以上のように制度設計が複雑で時間を要しておりますが、公平で適切な支援ができるよう制度設計に努めてまいりたいと考えております。

高校等通学補助の制度化に向けた検討状況の説明とさせていただきます。

教育総務課からは以上でございます。

○学校教育課長（松井啓子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） それでは、平成28年度児童・生徒の問題行動等に関する調査結果の報告をいたします。

資料の5ページをごらんください。

これは去る10月27日報道の県の教育委員会が発表した結果になります。

学校種別に左から小学校、中学校というふうになっております。ここで言う問題行動等というふうにあります。これはいじめ、不登校、長期欠席、暴力行為を主なものとしております。この3つの項目についてそれぞれの市町村別の平成28年度の結果が示されております。また、ちょっと見づらいのですが、次のページ、6ページのほうには同じ調査での赤磐市の結果について、平成23年度から28年度の6年間の経年変化を示した資料です。

きょうは主に、5ページのほうに戻っていただきまして、県の資料のほうを中心に説明をさせていただきます。

表のほぼ真ん中あたり、太線を引いた欄が赤磐市の結果になります。また、一番下の欄には県全体の結果があります。それから、その下、欄外になりますが、県全体の前年度の数値や前年度との比較の数値も示されています。少し字が小さくて見づらいのですがごらんください。

まず、小学校のほうです。いじめについて御報告をいたします。

いじめの認知件数はふえております。県全体では604件、一番下のところを見ていただければわかるのですが、604件から1,230件ということで倍増しております。倍ではないです、倍増です。それから、中学校でも、小学校ほどの割合ではありませんが、470件から643件と増加傾向にあります。同じように6ページのほうの赤磐市の資料も見ていただけるとわかると思いますが、11件から19件、小学校では、中学校のほうでは14件から28件というふうにふえております。

これについては、小さいさかい等でもいじめの可能性を含んでいるということを認識して対応するということが国や県の方針として示されたことにあります。重大事案につながらないようなことであっても、いじめの可能性があると認識して対応した件数を報告するようになっております。今後、さらにこの数についてはふえていくと思われれます。また、解消率というのもそこに出ていると思うのですけれども、これについても学校の指導によって一旦収束した事案であっても、その状態が一定の期間続いたことを確認しなければ解消したことにはならないというような方針も出されております。昨年度については、赤磐市では解消率が100%になっていますが、今後はそうならないことが見込まれます。

続いて、長期欠席、不登校の欄です。

小学校は、赤磐市では0.59%の出現率で、一番下のところを見ていただきますと県のほう全体では0.51%の出現率ということで、小学校では県の出現率よりもやや高い割合。それから、中学校のほうは右から3つ目の欄になりますが、赤磐市では3.13%、県のほうは2.52%ということで、中学校では高い割合を示しております。ただ、6ページのほうの資料の一番下になりますが、経年で見ますと昨年度増加をしておりましたが、27年度よりは少し減少しております。取り組みの成果は上がってきているというふうに見ております。

不登校対策事業としては、小中学校に登校支援員を配置し、登校支援や遅刻して登校する児童・生徒への支援を行うこと。それから、学校相談員の配置を始め、適応指導教室の指導員等の相談活動の充実を図って、無支援ゼロの取り組みを続けること。それから、家庭への支援ができるスクールソーシャルワーカーを県の支援によって配置して家庭支援を進めるとともに、関係機関とのより密接な連携を図ること等の取り組みを行っています。しかし、依然として先ほどお話をさせていただいたように県の出現率よりは高い傾向を示しているということで、不登校は本市の課題であると捉えております。

学校においても落ちついた学級集団づくりを進めたり、子供たちが楽しいと思えるような教育活動を行ったりと魅力ある学校づくりを進めています。今後はコミュニケーションに課題を持つ児童・生徒への支援、特別支援教育との連携等について考えてまいりたいと思います。

最後に暴力行為です。

赤磐市、それから県ともに小学校では増加傾向、中学校では減少傾向となっています。一番右端です。小学校、中学校それぞれ右端のところを見ていただけたらと思いますが、県のほう

は2.46から3.63というふうになっています。中学校のほうは11.33から10.11ということでこれは減っております。同じように6ページのほうも見ていただきますと、小学校では8から10、中学校では15件から12件ということで同じような傾向を示しています。1,000人当たりの発生件数についても……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、そのくれえでええ、あんたのことばあずっとやらにゃおえんから。

○学校教育課長（松井啓子君） はい、済いません。

○委員長（北川勝義君） これからはもうちょっと明瞭にやってよ。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。

○委員長（北川勝義君） 長えけん。

○学校教育課長（松井啓子君） はい。済いません。今回大きなこととしてというか特徴的なこととしては、低学年で増加したことが特徴になります。中学校では、授業に入りづらい生徒への別室での個別指導等により少しずつ安定した状況で学校生活を送れるようになったことが減少傾向を示した要因ではないかと考えております。今後は、校内においては落ちついた学級づくりのために毅然とした指導と心に寄り添う指導を両輪とした取り組みを継続して行いたいと思います。また、小中の連携を進め、児童相談所等の関係機関との連携を推進してまいります。また、校外での問題行動の対応としては警察等の関係機関との連携を図っていきたいと考えております。

済いません。以上で報告を終わります。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、旧永瀬家住宅の登録有形文化財の新登録について説明させていただきますので、お手元の資料の7ページをごらんください。

赤磐市松木に所在する詩人永瀬清子の生家であります旧永瀬清子住宅主屋及び旧永瀬家住宅井戸が7月21日の文化庁文化審議会文化財分科会へ登録有形文化財（建造物）登録の答申がなされていましたが、このたび10月27日の官報告示をもって正式に登録されましたので、ここに御報告いたします。本市におきましては、赤磐市吉井郷土資料館に続き、このたび2件の追加がされ、合計3件の登録有形文化財の登録となりました。また、岡山県ではこれまで270件の登録有形文化財がありまして、今回を含めると270件程度になります。登録文化財制度は平成8年に施行された制度で、近年の開発の進展、生活様式の変化などにより社会的評価を受ける間もなく消滅するおそれのある多くの近代の建築物を中心として後世に幅広く保存、継承していくため穏やかな保護措置を講じる制度で、規制の厳しい指定文化財制度を補完するものでございます。旧永瀬住宅は木造2階建ての入母屋づくりで明治前期の建築とされ、熊山地域に残

る唯一の町家建築です。建物の所有者は特定非営利活動法人永瀬清子生家保存会でございます。現在社会教育課が進めています永瀬清子の詩の顕彰とともに、旧永瀬住宅の保存活用が期待されております。

以上、社会教育課から報告させていただきました。

続きまして、スポーツ振興課から赤磐市スポーツ施設整備計画（案）につきまして御報告させていただきますので、別冊の資料をごらんください。

この計画（案）でございますけれど、平成27年3月に策定しました赤磐市スポーツ推進計画に基づき今後の施設整備について策定しましたので、その概略を説明させていただきます。

まず、策定計画の趣旨でございますけれど、赤磐市では「人“いきいき”まち“きらり”」を将来像に活力ある住みよい、住みたい、住み続けたい赤磐市の実現を目指し、市民の誰もがいつでもどこでもスポーツに親しみ、生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を実現していくため、スポーツ環境を整え、市民一人一人が日常生活の中でスポーツを取り入れることのできる生涯スポーツ社会の実現に向け、誰もが気軽に楽しめるスポーツ推進を図るための基本指針となる赤磐市スポーツ施設整備計画を策定しました。計画の位置づけといたしましては、赤磐市総合計画のスポーツ振興に関する部門として位置づけるものでございます。計画の期間といたしましては、平成29年度から平成33年度までの5年間を基本といたします。

スポーツ施設の状況でございますけれど、赤磐市のスポーツ施設については体育館、屋内プール、野球場、テニスコート、多目的広場など数多くの施設がございます。吉井B&G海洋センターを初め、施設改修及び部分的に施設修繕を行ってまいりましたけれど、老朽化が進んでいることや市民のスポーツニーズが多様化してきたことなどから市民要求を十分に満たしていない状況でございます。今後におきましては、既存施設の改修や適切な管理、設備の更新やレベルアップ、市民ニーズに応じた施設整備などにより、競技スポーツや生涯スポーツの推進を目指し、さらなる見るスポーツにも対応した魅力あるスポーツ空間の整備が必要となってまいります。

3ページには市内の体育施設の一覧がありまして、今までの体育施設の主な改修状況を表1に記述してございます。そして、表2にはこれからの主な体育施設改修計画予定を記述しております。改修費用は未定ですが、各施設とも老朽化等により改修の必要が生じております。

5ページには基本施策といたしまして、施設の整備と効率的な運営としてニーズに応じた施設の整備、スポーツ施設の有効利用、効率的な管理運営を掲げ、今後においては財源の確保に努めながら予算措置を講じて改修等を行い、既存体育施設を有効活用していく予定でございます。

以上、赤磐市スポーツ施設整備計画（案）について説明いたしました。よろしくお願いたします。

以上で教育委員会からの御報告でございます。

○委員長（北川勝義君） 教育委員会のほうから説明がありました。

何か質問はありますか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） プールのことで聞きてんじゃけど、内容がちょっと違うんですけどいいですか。

○委員長（北川勝義君） はい。どうぞ。

○委員（下山哲司君） 市長にちょっとお尋ねしてんじゃけど、29年7月19日、赤磐市長友實武則、プールの設計監理業務委託の入札があって、資料を見れば構造が鉄筋コンクリートづくりということで発注してあるんな。何か今話をいろいろ聞きようると、ステンレスでやるような話が業界のほうで耳に入ってくるんじゃけど、何でそういうことになるんか、ちょっと不思議に思うんじゃけど。

それから、入札を落とされたGEN設計さんというのは、こりゃ吉井の給食センターしたときにちょっと問題になったんじゃけど、常識じゃ考えられんような値札を入れて、中の機器の会社からバックをとったとかというような話が出るとわけじゃ。どうもこの人がかかわったら何かいつも問題があるような気がするんじゃけど、どうも納得いかないので、その辺説明してほしいんですけど。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 今の下山委員の指摘の躯体等に関する仕様ですが、これについては細かい部分になるうかと思しますので、担当のほうから説明をさせていただきます。その後にもたお願いします。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） 下山委員さんのお尋ねのことです。

入札の設計仕様書の中では構造として鉄筋コンクリート造ということでお示しをさせていただいております。こちらにつきましては、水槽の中身、内装部分につきましては鉄筋コンクリ造というわけではございませんでした。その部分につきましては、詳しくはこちらのほうで仕様書の中には記述はしておりませんでした。本体の部分につきましては鉄筋コンクリート造で進めたいというような方針で教育委員会のほうでも、平成28年度の当初予算のときから今現在ある市内のプールにおきましてもほぼ鉄筋コンクリ造ということがあることなどからこういったことで方針として進めており、またプールの水槽につきましても、当時の平成28年度の当初予算を上げさせていただくときに比較検討のほうを、内部ではございますがさせていただいております。その中では、アルミのプール水槽、そしてステンレス水槽、FRPの水槽、それか

ら下山委員さんが吉井地域の出身ということでよく目にされたと思うんですけど、城南小学校と吉井中学校はもうコンクリートのままの水槽ということでさせていただいておりました。そういった関係で、プールがコンクリートでないのかなというようなことを思われたのかもしれませんが、28年度のときにはそういったアルミ、ステンレス、FRPの比較のほうをさせていただいております。その中では、耐久性などを考えてステンレス製のプールがよいのではないかと教育委員会内部のほうではある程度の方針を示させていただいております。その中では、こういった設計の仕様書の中にそこまで書いていないという部分では、ボーリング調査などをして躯体の地面の強度、またそれから設計会社さんによる、ステンレスを我々のほうが選択した中では本当にそれがよかったのか、施工性、費用の問題なども再度検討してもらう必要もあるのではないかとということで、こういった形の仕様とさせていただいております。

説明が不足しているかもしれませんが、以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 下山委員、よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい、ありがとうございます。

担当としてはそういう回答しかできんと思う。じゃけど、いつも委員長に叱られるけど、うわさではというんじゃけど、うわさじゃいろんなあれが飛んどって、市長がかかわって銭もうけしょんじゃねえんじやろうかというようなうわさもあるん。じゃから、そねんことじゃ困るんで、きちっと調査して、どういうことがあってそういうことがわしらの耳に入ってくるんか、そういうことを調査してきちっとしてもらわなったら、徹底的にやらにやおえんようになるよ、こりゃあ。だって、この前のときの給食センターのときでも大問題で、できてしもうたから言わなんだんじゃけど、やりようること自体がむちゃくちゃじゃけえ。じゃから、このGEN設計というんがかかわったらいつも何か問題が起きよんじゃねんか思うんじゃけど、何でそんなことになるんかよう調査して報告してほしいんじゃけど。できんのだったらわしらで調査するけど、そりゃ執行部のほうから市長の責任できちっとやってもらわなったら、そりゃ何でもかんでも賛成するという話にはならんと思う。市長、どねえ思うんか答弁ください。

○委員長（北川勝義君） ちょっと先、関連でええかな。

○委員（下山哲司君） 関連。

○委員長（北川勝義君） 僕はこの中学校とかB&Gとかあったとき、設計の段階に入ったら、僕らも経験があるからわからんことはねえんじゃけど、設計業者がこれは僕がしょうとこじゃとかこう言うて、設計業者とられたりしたんがあったん。それはまあ、先生そういう物言いしちゃいけんどと、僕は個人的に美作のほうの知った先生じゃったけえ言うたんです、こりゃ。今度は吉井中のプールも何か相談に乗ったりてごをする人がおりますが、直したりとか。そしたら、今度は指名じゃのうて一般競争で、そこじゃねえとこがとったから僕にぼっけえ文句言われたんよ、総務文教委員長じゃけというて。ふざけたこと言われなというて僕は言うたわけ。じゃから、そういうやっかみもあったりする者もおろうし、それから何やかんやあ

るんで、そういうことが。何でもやるんじやったら初めから、急遽決めてやるんじやのうて初めから一般入札とか公募型とか、それから指名とか、やっぱり決めてもらうとかにやあ、市長はそういうようなことねえと思うが、そういう誤解が起きてくると思うんで、それは我々も関係ねえことで聞かれたりするんで。

それから、今下山さんから言われたことで、僕は誤解とかうわさとか真実どうのこうのという風潮で言うんじやねえ、やってもろうて僕は給食センターもGEN設計やられたり、それからどこじやったかな、ひかり幼稚園、違うたかな。幼稚園違うたんかな。あれは違う、やなぎじやったか、幼稚園は。まあ割に指定業者も別に悪いと思うたことはねえんじやけど、やり方で僕は今初めてステンレスじやというて言うたりするけど、ステンレスがええとかなんとかというのは、プールというたら大体鉄筋コンクリートで、外へ、中側へグラスファイバーひいたぐれえなんがプールじやと思よったんじやけど、いろいろあると思うて、まあ検討してそういうことになったらええと思うたけ、そういうこと的设计が悪い、ええとかというていうことになっとったらおかしげなことになるんで、そこらも踏まえて市長、答弁願いますので。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 済いません。所管が教育委員会ということではございますけれども、私のほうから基本的な考え方を述べさせていただきます。

このプールの構造については、基本構造は鉄筋コンクリートづくりで、その水槽部分はステンレスを使用したものということが内部の検討で定められております。それを前提に設計を進めているわけでございますけれども、そのステンレス構造の中でこれもいろいろ材質あるいは工法、そういったことでいろんな仕様があるようでございます。そういったことを踏まえて、このプールについて基本的に使う子供たちにとって一番いいもの、あるいは耐久性、それから維持管理の面についても赤磐市にとって一番有利なもの、こういったものを選定して設計に反映するようにと教育委員会のほうへは強く申し入れをさせていただいております。いずれにしても、公平に各メーカーの競争が行われるよう設計についても配慮をして行いたいということでございます。

私のほうからは以上でございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 何で言ようかというたら、市長ええ答弁してくださったんでええんですけど、そういううわさが出る。何か知らん、業界で言やあ1者に決まるとるような話にしか聞こえてこんのよな。じゃから、そねえなことをしてもろうたら、そりゃ何か悪いことを、市長が袖の下でももらよんじやねんかという、そう言われるんが当たり前なんじや。じゃろう。それが何者もあって、それで市長がかかわってるともどねえもならん、どこへ落ちるやら

わからんというんなら何にも言うことはねんじゃけど、何で呼んだら参加させてもらえんような、まあ全部がステンレスじゃなかったから一部になるんじゃから、そりゃなかなかいろんな考え方もあるんかもしれんけど、じゃあけどその材質が今市長が言うたようにええか悪いかよそとも比べんわ、もうこれでぼんといつて、ほんならそれが1,000円しかせんものを2,000円で買よんかという話も出てくるが。そしたら、そいな話になったら、その1,000円はどこへ行くんらという話になるんじゃから、業界では。じゃから、教育長ずっとおったんじゃから、教育長あんた一番ようわかっとるんじゃから、教育長から答弁してくださいよ。

○委員長（北川勝義君） いや……。

○委員（下山哲司君） いやいや、ずっとやってきとんじゃろ、今28年から言よんじゃから。委員会ではなかったかな、こういう話は。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 教育長。

教育長指名したりするのは僕じゃけんな。

○委員（下山哲司君） はい。

○教育長（内田恵子君） 28年度教育委員長としておりましたが、この入れ物はステンレスにするというのはお聞きしております。が、詳しい幾つかの、申しわけありませんが、何点か先ほど説明がありましたけれども、それについてのいろいろ検討した結果のみお聞きしているという状況ではありました。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） わしはこういうような話聞きようたら、杉山の前の教育長がやめたのは、これは面倒になるけえやめたんじゃろうかというようにしか、いいほうにはとれんのじゃから、次々転がしていきようたらな。そんなことにならんように、きちっと調査して報告してもらわんだら、今の話じゃったらでたらめ、むちゃくちゃな話じゃけえ。設計事務所に問題がありそうなの、それからその業界ではそねえなトラブル話がいっぺえ耳へ入ってくるわ、そねえなことでプールは……。

○委員長（北川勝義君） じゃけえ、ぴちつと言うてあげにや、業界のどなたが言ようというのを……。

○委員（下山哲司君） そりゃ、そういうわけにはいかん。そりゃ、向こうも商売があつていろいろ皆動きよんじゃろうから。

○委員長（北川勝義君） じつつあんみてえなやつちゃな。

○委員（下山哲司君） 私も昔はそういうトップの関係とつき合いがあちこちあるから、1者

ばあじゃねえからな。そりゃ、聞きゃあ次々何ぼでも聞けるんじゃけど、わしが根掘り葉掘りやりようたんじゃまた問題になって大きゅうせにやおえんようになったら困るから、市長が調査してきちっとあれをするわというて言うてくれなんたら、わしや納得できんよ、この問題は。

○委員長（北川勝義君） いや、答えがわからんが。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） うわさ話はともかくとして、おっしゃっている趣旨はよく理解しました。今後も、先ほど言ったとおりではございますけども、公平に、そして何よりも優先すべきは赤磐市民の利益、この赤磐市が子供たちにここで品質の高いプールを提供でき、そしてそれが安価なもので将来的にも負担の少ない、こういったものを第一に考えてまいりますので、そこらあたり御理解のほうをよろしくお願いいたします。また、経過についてはお尋ねいただければお答えするように準備をしておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、よろしいな。

○委員（下山哲司君） 市長がそういうて約束してくれるんならええんじゃけど、市長がきちっと調査して、どうしてそういうような話が出とんか。それから、一番大事なのは、やるということに決まったらよりよいものをつくらにゃいけんし、よりよいものを安価で購入するよういせにゃいけんので、やっぱり1者でしかその対象がねえんじゃというような、もう絶対それ問題じゃからな、今。じゃから、その一部分に関して、全体の一つがステンレスだったらそりゃあちこち行くんじゃろうけど、一部分がステンレスじゃから言うんじゃけど、それにおいてももう業者が、自分とこの設計事務所がここでなけにゃいけんのんじゃというような話になるんだったら、わしや徹底的に調べるよ。このGENというのは給食センターでなかったことをしたり、単価の面でも、同じようにいろんな業種があって偏ったようなあれで設計出しとったり、でたらめなことをやっとするわけじゃ、今まで。じゃから、わしらも何十年もそういう業界へおったから、ちょっと見たらこりゃむちゃくちゃなん入れとるなというぐれえわかるん。じゃから、そんなことにならんように。だってこの入札、わしちょっと聞いたんじゃけど、皆口つぐむ。口をつぐむということ自体がおかしいんじゃけえ、こういう人がな。おめえせえだったらええんかというてもつぐむんじゃから。じゃから、そねんことが起きんようにせにゃあ。正々堂々とやっとなんじゃというて返事をすりゃええのに、せんのじゃから、せんというのはおかしいんじゃから。じゃから、何もかもがこりゃおかしいんじゃけえ、それでやるんだったら、わしやあ錢を使うてでも本職を雇うて調査してやってもええぐれえに腹が立つとる。じゃから、市長がきちっとそういうことをやってくれるという約束をしてくれるんなら、もうこっから先は口を出さんけど、それでなかったら徹底してやるよ、わし。もともとがもめとんじゃけ、わしや。その辺の答弁を市長、きちんとしてちょうでえ。そうでなかったら、きょうは

帰ってすっきり寝れんわ。

○委員長（北川勝義君） 寝んでもええ、起きときゃええ、3日ほど。3日ほど起きときゃ。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 繰り返しになりますから、長くならないように。先ほども申しましたように、第一は公平に、公正にやるということに立脚してやらせていただきます。またよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、よろしいな。

○委員（下山哲司君） はい、市長のあれに期待します。

○委員長（北川勝義君） おえにゃあ、また百条でもしちやりゃあええがな。

他にありませんか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員（松田 勲君） どうぞどうぞ。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） スポーツ施設整備計画の案の中に、一例ですけどグラウンド・ゴルフ場、30年以降未定、駐車場整備というようなことが入っとんですけど、県内各地からいいグラウンド・ゴルフ場じゃというて大会等に御遠方からもたくさん来とられるようなことをお聞きしとります。その中で、残念なんですけど昼間、助手席のガラスをたたき割られて盗難があったとかというようなことも一部耳にしとりますんで、駐車場整備ももちろんなんですけど、残念なことなんですけど防犯カメラ等のことがもしかしたら先かなと。よそから来た人がもしそういうことに遭えば、赤磐市は何ちゅうとこならというようなことにしかなりませんのんで、その辺のことも、グラウンド・ゴルフ場にかかわらず、先々で御検討をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（北川勝義君） 答弁ええか。

課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） いろいろと御意見ありがとうございます。今後におきましても、皆様が安心して利用できるようにいろいろな措置を講じていきたいとは思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいな。

○委員（松田 勲君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 済いません。

私のほうから、3ページ、4ページの通学費の補助の件なんですけど、検討の内容を表にしていらっしゃるんですけど、わかりやすいようなわかりにくいような。ただ、これずっと見てたら、すごい難しく考えてらっしゃるなと思うんです。市民の方そんなに難しく考えてないのに、結構難しく難しく、公平性をつけるためにもなんでしょうけど、逆に距離とか云々とかになったら公平かどうかわからないようなところがあると思うんですよね。これ実際いつをめどにされようとしてるんでしょうか。来年度の当初予算に盛り込む予定なんじゃないですか。その辺をまずお聞きしたいですが。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） 現在検討中の高校等の通学費補助についてでございますが、当初予算への盛り込みがなされるのかという御質問でございます。

現段階では制度がまだ煮詰めておりませんので、この案件がもう少し煮詰めた段階で予算化のお願いをさせていただけたらと考えております。

答弁になったかどうかわかりませんが、以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） この問題はもうずっと前から、私も言いましたしほかの議員さんも言われております。もうそろそろ形が出てくるのかなと思ったら、まだこれ検討段階で、しかもまだまとまっていないような状態で、今の答弁だと本当にいつやるのか、目標がなかったら前に進まんのじゃないですか、と思うんですけどね。

例えば、吉井なんかは、ここにも書いてるけど過疎債でやろうと思ったらできるわけですよ。だから、一遍にやるのが一番いいんですけど、できるところからまずやっていくべきだと思うし、駅までとか見たら、終点地点見たらこれ全部駅まで行くバス代ぐらいしか見てないのかなと、そこまでしか考えてねんかなという感じもするし。要は学校までの交通機関、電車、バス、送迎、そして自転車、これしかないわけですよ。赤磐市内に高校がないわけですから。だから、岡山向きに行くか、東備のほうに向かって行くか、津山のほうに向かって行くか、そこまでしかないわけですよ。そういった中で、じゃあバスを使ったらどのくらい見るかとか、電車使ったらどのくらい見るか、自転車だったらただというわけにいかんから何ぼか見るかとか、送迎だったら。でも、余り難しく考えよったら何もできないと思うんですよね。例えば、一律に何キロ以上だったら最低何ぼとか何か決めるとか、基準を決めていってそれにプラスアルファすればいいんじゃないですかね。余り細かく細かくするとあれですし、もし領収書いるんだったらバスの料金が定期代で変わりますから、その何掛け分しますよとか決めりゃええ話ですよ。

とにかく、いつまでにやるのかという目標を決めんと、これ前に進まんのじゃないですか。今はまだ当初もあるかどうかはわからん、今からそんなこと言ったらもうとても、来年

になっても同じことをずっと繰り返して行って、そのうちにもう子育て終わる方がいっぱいふえてきてですね。

今、国のほうは高校の無償化、大学の無償化とか言ってるし、子供たちの小学校を含めていろいろ無償化無償化というて、国のほうがもう進んでるんですよ。せめて、市の独自の政策だったら市のほうが先にやっついていかないといけないんじゃないですか。医療費の件でもそうだったけど、和気町がやる前に早く高校までって、和気町がもう先にしてしもうて、結局国のほうが小学校までペナルティーもなくなったわけでしょ。国のほうがどんどん変わってきとるじゃない。市のほうが先に進んでるはずなのに、国のほうがどんどん進んでいってしまう、こんなことしてたら。だから、その辺もうちょっと目標を明確にしてやるべきじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（北川勝義君） ちょっと関連したやつをええか。

言おうと思って、関連なんじゃけど、他の通学費の援助を受けていない方というの、誰も受けとりやすまあ。いやいや、僕は今、何でこんなことを書くんかなと思うてちょっとようわからなんだんじゃけど、3番目の……。

○委員（松田 勲君） 生活保護。

○委員長（北川勝義君） まあ、要保護とか生活保護、そんなことはわかっとなる。他の援助というそういう書き方がええんかどうかわからんけど、今そう思うたんが1点と。生活保護、それしか考えられんと思うとるけどな。

それでいったら、進学者が1,125人でアバウト約1,100人ほどじゃが。場所場所でやり方、自宅から行くんか、中学校区から行くんかいろいろメリット、デメリットある。把握の仕方があるし、何割が行きやあええんかわからん。その中で、どのくれえを考えとん、金額を。金額は計算しとらんのか。例えば、何千万円要るとか。どんなん、これわかりやあ。

それで、今同僚の松田委員が言ようる話じゃねえけど、ずっと言よん、もうタイミング的にいうて、実のところ中学校のプールへ戻る話なんじゃけど、来年の10月にできるというたら来年の中学1年だったら使えんなあと、こういうて残念がりようるわけなんで、1年、2年、3年というのは、極端な話したら。再来年はええわけじゃ、小学校5年生の子から該当になるというのは。それまで、来年1年になる子はあと2年使えるというて楽しみになるというのもあるんじゃけど、これももう1年でも行くときで早うならな、また話でしょうっつらいつまでになるんで。やっぱり市長、子育てせえというんじゃっつらいつごろやるというのだけ、大体の計画いつあるというのをわかりやあ言うてもらいてえなと思うて。ちょっと松田さん黙っというて。下山委員じゃねえけど、下山委員の言ようるプールやこうよりこれをつけと言う人もおる。プールつけと言うんもおる。それは、言うのはたまたま卒業してもう高校進学になったから、中学生の該当があるところの家は、両方あったところは、どっちが先じゃねえ、両方してくれとこういうて言ようたんで、卒業せん間にというのがあって。いつごろやられるかという

の、考えがあったら、松田さんの言われた話じゃねえけどあわせて教えていただきてえ、考え方を。まだすぐ、これ言うたからきょう決定じゃというんじゃねえんじゃけど、もし言える範囲で答えていただければなと思っております。

誰が答える、それは市長でもいい。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 2つ大きな要点がございます。

1つは、先ほども担当のほうから説明がありましたように、本当の意味で公平な補助のあり方、特に赤磐は鉄道駅がないと、熊山にあるのみでございます。そして、市内に高校がないというような状況も踏まえながら、公平な補助制度のあり方をしっかりと検討しないといけないと思っております。その制度について、先ほども説明がありましたように、この赤磐の地域特性、各地域の特性を見ますと多様化しております。そういったところを含めて、公平な制度をつくるための検討は慎重にやらないといけないということで検討を各種させていただいております。この検討を早くに完成させていきたいということが1つございます。

それから、もう1つには、この実施をしようと思えば大きな金額の財源が必要になります。この制度のとりようによっては、多くの費用もかかる制度にもなりかねないような状況でございますので、このあたり制度設計と財源確保、これを両輪で検討をしていかないといけないということが私どもに今大きな課題としてかかっておりますので、これらをまた進捗状況、皆さんにお知らせしながら検討結果を皆さんと共有できればと思っておりますので、できるだけ早く答えが出るように頑張ってみりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしいか。

○委員長（北川勝義君） はい。

○委員（下山哲司君） ぱっとこれ見て思うのは、過疎債が100%充当じゃと……。

○委員長（北川勝義君） 関係ねえこれ、吉井のことは関係ねえ。

○委員（下山哲司君） 充当じゃというのに、何でほんなら、どういう内容だったら過疎債に全部充当するんじゃというのはわしらにはわからん、言うてもらわなんたら。

○委員長（北川勝義君） 吉井だけじゃ、そりゃ。吉井しかできん、それ。

○委員（下山哲司君） じゃから、吉井地域。

じゃから、早う言やあ岡山の高校行くのに周匝から来るんところから行くんとは違うんじゃけえ、レベルが。バスの料金にしたって。

○委員長（北川勝義君） いや、違う違う……。

○委員（下山哲司君） それがあるからこういうものが対象になるわけじゃけえ。その対象になるものを手続しちやらんから、考え方によったら市が手続しちやらんからもらえんのじゃと

いう考え方じゃけえ、僕らに言わせたら。手続をしちやるあれをしちやらんということじゃけえ、早う言やあ。何でそんなことがわからんのじゃろうか思う。教育長だってそうじゃろう。大体、教育委員ひっさしたり、教育委員長したりしとって、何でそんなことが、プールのことやこう先先先言うて。前も言うとするように、もらえるものをもらう手続をしてあげるだけのことじゃない。

○委員長（北川勝義君） 違うっちゃあ。

○委員（下山哲司君） 吉井地域に関してはそうじゃが。

○委員長（北川勝義君） 違う違う。

○委員（下山哲司君） 一番困っとるのは吉井地域じゃろう。津山行っても遠いし、岡山行っても遠いし、和氣行っても遠いし。そりゃあ、じゃからできるところからできるところからやるということをしてくれなんたら、ただ手続のごみみたいなもんじゃが、こりゃあ。過疎債をもらう分に関しては。

○委員長（北川勝義君） 違うがな。

○委員（下山哲司君） ほかの分は時間かかってもええわ。じゃけど、その対象になつとるということは、使いなさいよと言うてくれようるわけじゃから、何でその手続ができません。そしたら、こういう内容だったら充当されるんじゃという内容も示さんが。そんなことでよう考えようるじゃしょうるじゃというような話にならんのじゃということを僕は言よんじゃ。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、言わりようることはわかる。

○委員（下山哲司君） きょうはこのぐれえでやめます。

○委員長（北川勝義君） 違う。吉井地域の過疎債というのは違う。こういう事業をしたら、吉井地域は過疎債が充当できますよということなんでその……。

○委員（下山哲司君） 言い方変えて。

○委員長（北川勝義君） 言い方変えとんじゃねえ、わかっると、また別で。せんけんできません。いろいろの中で全体、赤磐市のことを考えて言よんじゃけえ、そこのところはまた。

それで、市長、金額がどのくらい要するというんか、億の金が要るんかもしれんけど、2分の1にしてみるんじゃとか、参考にというて言やあ何割にしてみるんじゃとか、家からいろいろあると思う。そりゃ、僕が言いたかったのは、松田さんに、早急にやらなんたら市長、何のために、子育てするならあかいわというて言よんで。それをしたら、こんな自動運転でめがされたんやこう目じゃねんじゃ。ここで一般質問しようと思うてせなんだんじゃけど、子育てするならあかいわというのはこういうことをやって上げてもらいてえということの、上げんからプールがあれじゃとけちをつけたりするわけ。市民にも、議員にもレベル低い、僕を含めてようけそんなん多いから。予算がふんだんにありやできるけど、できにきいところもあるから、そこをどうするというの、今から全額100%見ちやるというたら大変なことになると思うから、例えば5割見とくんじゃとか、5割が次のときには7割できるとかという。5割が妥当だとか

全然思ようらんよ、もうわかりようらんのじゃけど。それで、僕は金額全体どのくれえかかるんならというのを初めから聞いたかったわけ。僕らで、総務文教委員会でこんだけの1,100人行く場所によって違うけど、アバウトに計算、今の状態でいったら1億円かかりますよと、100%したらと。しかし、これ5割にするんじゃとか、次から6割にする、そういうたたき上げになることも我々に教えていただきてえということと言いたかったんで。そうしたら、逆にこんなことは大変失礼なことになる、別に吉井地区がどうのこうの、こっからでももうちょっと遠い、便利の悪いところでレベルが一本上というたらちょっと言い方悪いけど、そういう専門の自分の行きてえところに行ける場合もできますが。金がねえためにそれはちょっと我慢しようかという、僕らもそうや、そのいろいろのことがあるし、3年生というのは、高専やこの場合は3年で終わるといのはあるんじゃろうけど、そこはどこら辺まで見ていくかというのを早急に今後やってもらいてえと思うんですよ。

ああじゃこうじゃのうて、大変言い方悪いけど、こけえおられる方はほとんど高校の子育てが済んだ者ばあなんじゃ、自分が。自分が今子育てしようるときだったら、どれだけ要るといふのがあるんじゃ。僕らも、こういうことを言うちゃ悪いけど、和気へ2人行きよて、片鉄バスじゃって、宇野バスと片鉄じゃ1.7倍ほど片鉄が高かった、バスが。送っていく、うちら子供の手に合わんから、2年生になったら免許を取ってオートバイ買うてくれりゃ行くというて、一遍も乗って行かなんだけどな。結果バスで行くんじゃけど、親が送って行ったり時間帯がねえからというていろいろやりようたんじゃけど、そこのところ。要るときもそういう経験があったから、一遍に6カ月も定期は買えんと、高過ぎるから。安うなるんじゃけど、お金が一旦要るからということ2カ月しか買わんとかというのをやりようた。じゃけえ、そこのところがあるんで、できたらいつごろにできるか、下山さんが言よう話じゃねえけど希望を持たすというたら言い方悪いけど、いつじゃというのを早う。これ議員一人が質問したんじゃねえ、何人も質問してきとんで、どのくらいになるん。率は、率まで言わんのんです、100%やっちゃってくれえ、100%はええけど、早うしてもらいてえなと思うて、それを踏まえて市長、もう一遍答えというたらおかしいけど、答えてもらえんか。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 時期については、できるだけ早くという表現をさせていただきました。今ここで、例えば来年4月に実施するというのが……。

○委員長（北川勝義君） いやいや。

○市長（友實武則君） 責任を持って言えませんが、今いただいた御意見をしっかりと持ち帰って、時期についても検討させていただこうと思っております。どうかよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） なかなか大変だと思うんですけど、計算したら、例えば月5,000円1人に支給したとして、約7,000万円なんです、年間で。

○委員長（北川勝義君） 単純計算すりゃあな。

○委員（松田 勲君） 単純計算したら7,000万円ぐらいになるんです。それじゃあ高いから、ちょっと抑えようとしたら、例えば今公共交通機関を使っている人を対象にまずするとかして、その例えば一律に何ぼにするとかというのを決めて、そこから始めていくとかですね。ある程度地盤ができてきたら、自転車通もいろいろおるけど、でも基本的に公共交通機関を使っただけということがメリットにもなると思うんですよ。さっきの宇野バスさんにしても何にしても、市のバスにしても、使っただけということを前提に公共交通機関を使ってもら、今まで自転車で瀬戸高行ってた子がやっぱりバスに乗ろうかとかかなれば、また経済にもつながっていくと思いますので。そういったことも踏まえて考えていかれたらいいんじゃないかなと。一遍に、公平なんが一番ですけど、誰も全然もらわない人はまた文句も言われると思うんですけど、まず公共交通機関を使ってる方を中心に、全額じゃなくて半額でもなくとも、例えば何ぼという形で出すとかということも考えてもいいんじゃないかと思うんです。

とにかく、早く手を打たないと時は過ぎてしまうと思います。もう去年の今ごろも同じこと言ってたと思うんです。今まだこんな状態なんでびっくりしたんですけど、その辺を踏まえて考えていただきたいと思います。市長、どんなでしょうか。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 公共交通機関を活用している人をまず先行的にという意見でございます。それは検討の中で当然考えてきたことでございます。しかしながら、赤磐市で公共交通機関が通っているところばかりじゃありません。桜が丘とか旧山陽のあたりは宇野バスが通っておりますけども、例えば赤坂あるいは吉井あたりへ行きますと、宇野バスの便数も実用にならないぐらいの減便が実施されております。そういったことを踏まえて、公共交通機関を利用している方のみを先行的にというのは大きな不公平を呼ぶという判断もありまして、こういった形がいいのかっていうのをよく考えないといけないということで、この検討も申しわけないですけど、複雑化してきているところでございます。

そういったこともありますが、言われている御意見の気持ちもよくわかります。早く答えを出して、お諮りしていきたいということは間違いございませんので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 委員長もさっき言うたように、これから来年子供を行かそうかという

のにお金は何ぼ要ったらいけんけん、ほんなら林野で我慢しょうかという、こういう話になるから。

○委員長（北川勝義君） 早うしてほしい。

○委員（下山哲司君） じゃから、できるだけ早う示してあげていつからどのくらいというて。また、吉井地域においては、平等にないから過疎債がつくんじゃ。してあげることで平等になる。平等というんだったら、そういう考え方を持ってもらわにゃ。平等でないからつくんじゃから、国民として。じゃから、その辺をきちっと、吉井地域はほんならいつまでにしますぐれえ言うてもらわなんだら。

簡単なこっちゃ、銭だけ目いっぱいもらえばええんじゃけえ。ここが決めるんじゃねんじゃけえ、国が決めたのをもらえるだけもらえばええんじゃけえ、何にもぼっこう難しい話じゃありゃへんが、吉井地域をするのに。何で一番問題のところこそねえ後回しになるんかという、それがわからんというて言よん。その答弁だけください。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 友實市長、ちょっと待って。

下山さん言うのわかるんじゃけど、下山さん趣旨をわかって言ようるか、わかりょうらんか。

僕らの言いたかった、松田さんも皆言われようるのは、一日でも早う示してほしいと。100%示してくれと言よんじゃねえ、100%出すか100%出せんでも、例えば3割とか2割でもええ、5割6割でも、7割補助じゃったら7割補助でもええし6割でも、それをしてもろうて次の年は、ひよっともっと進んだ8割になっていくとかというようなことも必要だと思うんで、そういうことも踏まえて、私の考え、下山さん言われた、吉井は過疎債が使えるから吉井だけ吉井だけというわけには、僕らも吉井の市議会議員じゃねえ、赤磐市の市議会議員で委員会も構成しとんじゃから、そういうことも踏まえて、早急にやってもらいてえということを絶えず下山さんが言われようることだと思う、それはもう前から言ようことで、そこのところも踏まえて答弁願います。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） ありがとうございます。きょういただいた御意見、本当にごもつともな御意見ばかりなので、よくこれを持ち帰って、繰り返しになりますけどできるだけ早期に実現するようこれから努力をさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、そのくれえでえかろう。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） とりあえず、今読んだこれも出てきただけ参考が出てきょうることじゃから、前向きになっていきよんで、できりゃあプールもできることで一緒に予算もつけて

もらいてえというんが僕らの考えなんで。

それで、スポーツ施設の整備計画、これも各関係者、使用者ですな。例えば一つのことをいうたらグラウンド・ゴルフ場でいうたらグラウンド・ゴルフ使う人とか、それから西山グラウンドで野球とかソフトするならする人、その子らの意見もよう反映させてあげてください。それとまた、近隣のやっていくとこ、例えばナイターでもつけたら、西山グラウンドナイターつけたら稲がおえんけえおえんという場合もあるし、そこらの住民とのトラブルにならんように、そこのところをやって順次進めていただければええと思うとんでよろしくお願ひしたいと思ひます。

それからもう1点、これ全然関係ねえことかもしれんんですけど、実は7ページの永瀬清子のことの登録有形文化財になって、これ吉井の尋常小学校のはこれは赤磐市のもんですわな、管理者は、赤磐市が直しょうりますわな。それで、絶えず今思うて、一遍二遍ほど色を塗ったんじゃけど、本当この間から見てもうぼろぼろになってきとんで、できたら、ふんふんというて土井課長な、わかっとならしてくれにやあ。そうなつてきよんで、手直しできる範囲とか、それをどうしてもそのまま登録有形文化財じゃからそのまま直さにやおえんじやのうて、もしおえんだら下のとこの板だけはステンにかえるとかなんとかの方法論を、言葉は悪いんですけど貧乏人の銭失い、もつようなもんで、似たようなもんでやってもらわにやおえんのんじゃねえかと思うとんですよ。学校教育の中で人権教育本当に大事なことと思うとります。

それからもう1点、7ページの特定非営利活動法人永瀬清子生家保存会がこれの持ち物となつとんですけど、これについては旧熊山町の中で、釈迦に説法、実盛さんがおる前で言う話じゃねえけど、熊山の中では図書館と記念館をつくってやるということでこれは受けないということで受けなんで、今こういう営利活動の団体が受けて、僕も永瀬清子の詩の朗読のとき毎回出ております。それもそうやるということで話できとりますわな。それで、ここの家の保存までにはやらなかったと、お金をかけなんだんですけど、国土の歴史的ということになった、これはなつてすばらしいことですが、特定非営利活動団体があるんですけど、それについてやるときに、国からは例えば1,000万円直す修理代認められたら500万円出ると。出た場合に、赤磐市が黙ってほっとくんかというのもなかなか前のこともあるけどしくいんじゃねえかなと思ひうて、ここらのこともどう考えられとるか。これなつたからおえんとかという話しょんじゃねえ、大変すばらしいこつちやけど、どう考えとるか教えていただきたいというのが1点。

それから、この特定非営利活動法人永瀬清子生家保存会なんですけど、これ1つ物申さにやおえんのは、たしか11月10日に議会報告会でいきいき交流センターでしたときに、その関係の人から映画ができたから、時々テレビでやりようたけどできた、永瀬清子生家保存のやつとんのができたということで、パンフレットもろうて、ぜひ来てください、行こうと思ひうて、12月3日の人権を考えるつどいが13時から5時まで、中央公民館でやるんですよ。私はそつちのほうへ必ず出席するんです。そういうときにあわせて、同じ日に永瀬清子というて映画するん。

僕はもう絶えず言ようる、今まで行政が、議会運営委員会るとき言ようりますわな、下山さん、あわせてくれなど。どうしても仕方ねえ場合あるけど、こんなことをしたら行こうにも行けれんので、重複になってくるんじゃねえかと思うんで、NPOといえど活動していくんじやったらこの日はこうですというて行政にも相談してやってもらわにゃあいけんのんじやねえかなと私は思いました。そこら辺があるんで、そこのところどねえ考えとるか。

それからもう1個、特に教育委員会じゃけえあえて言わせてもらうのは、8日に議会事務局長は出ておられたけど、10日に、議会報告会で議長のほうへ報告して全部上がってくるけど、山陽団地のあそこの何の家かな、子育てしょうるあの……。

○委員（下山哲司君） 子どもの家。

○委員長（北川勝義君） 子どもの家の関係の。どんぶらこの方が皆言うた、あそこは貧困な貧困なというて、山陽団地は貧困な貧困な子供でという言い方されたと思うんで、余り聞きよいうて聞き捨てならんような気がして、貧困貧困というて何を。前は市長の発言で、議会報告会じゃけえ市長がそういう発言があつてという話を捉えていうんじやけど、何かひとり歩きしとんで、そういう活動しょうる団体も、赤磐市とか国の助成をもろうて頑張つてやられて、感心しとるわけじゃ、僕らやってもねえ。間違うたことをそういう報告やこうをしてもらうようになってねえんじやねえかなと1点思うたんで、そこらのことは今後教育委員会のほうとしても、教育長、それは違いますよというのを明確に言うていただかなんたら、赤磐市の最高指令者が貧困なとか言うて、子供の差別とは言いませんが、そういう発言をしとるとかというようなことを言われたら、足をとられる思うて、引っ張るようになるんで、大変不愉快だったんで、僕は次からもうこんなあれは出とうねえとこういう性格言うて、議員の皆さんには迷惑かけるけどあるんで、そこらも考えとってください。これはどうこういうことじゃねえ、山陽団地が貧困貧困というけど、山陽団地より貧困なところは赤磐にはもっとありますよ。私はそう思いましたんで、どこがどうか、貧困ナンバーワンで部類を出したり、市長がそれを言うて回りようるように言われたら憤慨だったんで、一遍調査じゃねえけど聞いてみてください。調べてみて、別に他意はありませんから。僕の言いてえの、それを言いたかったんで。

以上です。

○委員（大口浩志君） 委員長、その他でいいですか。

○委員長（北川勝義君） この分で、教育委員会の中ので。

まだ消防本部がある。

○副委員長（永徳省二君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、どうぞ。

○副委員長（永徳省二君） 教育委員会資料の6ページの1番、いじめ認知件数っていうのがあつて、これは28年度、ほかもそうですけど、100%解消してるっていうふうになってるんですけど、こんなこと本当にあり得るのかなと。教育長も必ずいじめって存在するっておっしゃ

っておられますよね。こんな100%いじめが解消してるって、これ本当なんですかという確認です。

○委員長（北川勝義君） 100%解消しとるというて。お互いの折り合いがついたんじゃない。

はい、課長。

○学校教育課長（松井啓子君） ありがとうございます。先ほども説明の中で申し上げさせていただいたんですが、解消したというのは一旦学校が間に入って子供たちに指導をして、一旦収束したような形になったものを解消しているというふうにこれまでは捉えておりましたが、今後、長くその状況が続かないといけないという指導も入っておりますので、そのあたりについてこれからはもう少しこの数字が100%じゃなくなってくるだろうというふうに予想しております。

○委員長（北川勝義君） わからんな。

○委員（下山哲司君） 取り方が違う。手がけたものが解消したと。

○委員長（北川勝義君） そうそう、手がけたことがな。

はい。

○副委員長（永徳省二君） 内田教育長、これ実際どういう認識なんでしょう。100%解消してるってもう書いてあるんですけど。

○委員長（北川勝義君） 案件じゃがな。

○副委員長（永徳省二君） どういう認識なのか。

○教育長（内田恵子君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（内田恵子君） この100%というのは、47件いじめとしてそれぞれの学校でそれぞれの関係者の方が把握をしました。それについて調査、それから解消に向けての取り組みをして、とりあえずと表現させていただきましょうか、解消したと判断をしたものという数字の100%でございます。

○委員長（北川勝義君） 聞き取り調査やっただけじゃがな。

○教育長（内田恵子君） 聞き取り調査だけではございませんが、各家庭との連絡、そういうことも含めた解消というので上がってきた報告の数字でございます。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○教育長（内田恵子君） 以上です。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

大口委員。

あ、一応これじゃねえかろう。

○委員（大口浩志君） その他です。

○委員長（北川勝義君） それでは、教育委員会のほうを終わりたいと思います。

消防本部のほうでお願いします。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 消防本部の資料のほうごらんいただければと思います。

平成29年度の秋季火災予防運動行事について御説明させていただきます。

先月の委員会のほうでも報告させていただきましたけれども、現在秋季火災予防運動を実施中でございます。11月9日から15日まで、16事業のほうを展開させていただいております。あすで最終日になりますけれども、火災予防運動の目的であります火災予防の普及高揚と火災の撲滅、そして危険物施設の災害防止、この当初の目的が達成されますよう最後まで事業完遂に期していきたいと考えております。

また、今回初めてさせていただいた事業で、消防フェスの来客数の報告をさせていただきます。約800人の来客のほうをいただきました。大盛況なフェスになりました。来年度も継続してこの事業を展開させていただきたいと思います。今年度の反省を踏まえまして、よりよい事業展開ができますよう努力してまいりたいと考えております。

次に、資料はございませんけれども、6月の委員会で救助工作車の更新事業の報告をさせていただいております。12月の中旬に中間検査を実施する予定となりました。検査結果と車両作製の進捗状況につきましては、来月もしくは1月の委員会で報告できるかと考えております。

消防総務課からは以上の報告となります。

○委員長（北川勝義君） 消防本部のほうから終わりました。

何か質問ありますか。

一遍消防車見に行かなおえんなあ。どこでつくりよんな。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（井元官史君） これは兵庫県の三田市の森田ポンプの工場になります。

○委員長（北川勝義君） ああ、前から行こうというて行かんだけじゃ。誰も行こう言わんけえな。

○委員（松田 勲君） 1回行こういうて。

○委員長（北川勝義君） あれは流れたな。

○委員（松田 勲君） 流れた。

○委員長（北川勝義君） 下山さんが委員長のとき行こうというて流れたのう。

見ても余り銭を使うて行きようたら怒られるから。

ほな、消防本部よろしいな。

それでは、以上で事業の進捗状況については終わりたいと思います。

(2)のその他に入りたいと思います。

その他で、執行部のほう何かありましたらお願いしたいと思います。

執行部のほうありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、委員の皆さんその他何かありましたらお願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 私自身もいつ加害者になるかという状況なんですけど、先日の中国自動車道で大学4年生の女の子が亡くなられた事故があったと思います。高速道路を走る車は消防が多いのかなと思ったりしますけど、同じようにパンクしたり、交換用のタイヤをぶら下げとる車というのは軽トラを始め、さっき見に行った給食センターの配送車等も含めてたくさんあると思います。あの事故のニュースを受けて、赤磐市ではどういう対策をとられとんでしょうか。民間運送会社なんかはすぐ動かれて、いろんな対策をとられとるように聞いておりますが、いかがでしょう。

○委員長（北川勝義君） 総務部長。総務部長じゃろう。

何もとっとりやすまあ、おめえら。

何もしてなからう。

○総務部長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 総務部長。

○総務部長（前田正之君） 確かに、痛ましい事件だということで認識しております。公用車の管理、そして公用車を運転する心構えとしてそういったことにならないようこれから、現在までは何もできてないのが現状です。せつかく貴重な御意見をいただきました。肝に銘じまして、これから対応のほうを当たっていきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（大口浩志君） よろしくをお願いします。

○委員長（北川勝義君） ちょっと確認なんじゃけど、消防長、議会報告会のときに警察のや火事や救急のことがあって、高速道路は和気までとそれから岡山市じゃというてこう答えたんじゃ、僕が。和気から赤磐までだと、救急とか出るのは。それはええんじゃけど、その後に、相互乗り入れの火事やこう、泥棒やこうは警察が捕らえれば現行犯でいくんじゃけど、なあ議長、そう言うたがな、僕が。うちの消防のとき、前のときと変わったんかもしれんけど、和気町じゃな、今の、塩田というのは東の出張所からいうたら。備作大橋渡ったらもう町外ですが。じゃけど、うちのところが近えから、うちの苦木とか塩田にまで消防、救急は行ったりし

ようるといふ、あつたんじゃ、前は。それで、向こうからも近えときは来てもらうといふ、うちが消防車も救急車も少ねえからといふことじゃつたんじゃけど、前そのとおりじゃつたけえ、前そういうことしようといふのがあつたから僕言うたんじゃけど、どんなかな、今やりよんかな、ねえんかな。もう違ふとつたら、議会報告会に言うといふ僕言うたのそれじゃけえ、訂正しとかなんだらいけんと思ふて。

○消防本部消防長（矢部敬史君） これについては、基本的には赤磐市の消防ですので……。

○議会事務局長（奥田吉男君） そつちで答えてください。

○消防本部消防長（矢部敬史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 消防長。

○消防本部消防長（矢部敬史君） 基本的には、赤磐市の消防ですので赤磐市の……。

○委員長（北川勝義君） そんなことはわかつたんじゃけど。

○消防本部消防長（矢部敬史君） はい。相互応援協定等でそういった必要性があつて向こうから要請が、佐伯ですから東備消防、こういったところから要請があれば当然応援に行きます。

○委員長（北川勝義君） 違ふ違ふ、行きますといふて。

火事は行かにおえんの。火事もあるんじゃけど、救急で塩田の人が、向こうから来るの遠いから、これ前あつたからやりようだから、赤磐市になつてもやつとつたから、僕はやりようと思ふとるから、塩田の人が救急車がいふたら来るのは時間、向こう東備消防もずっと救急車置いとるわけじゃねえから、ねえ場合は、こつちの北出張所が行きようたんがあつたから。実際行きようだから、逆のもあつたから、そういう相互乗り入れができとんじゃろうから、そういう近隣にはしとるといふて議会報告会で報告したわけ、僕が。違ふとりゃあ僕が報告やり直さにおえんからどうなつとんならと言ふたのに、一々あるたびに人がなつたときに、そんなよう常識で聞いてくれ。病気になつて救急車呼ばにおえんときに救急車、東備消防におつたら東備消防がうちは一杯じゃからおらんといふて言ふたときに、はいほんなら近くじゃけえ赤磐北消防署を呼びます、相互連絡して、そんなことじゃのうて、そりゃできとんじゃねんかといふことを言ふたんじゃ。今できて、継続しとんじゃねえんか。してねえんじゃつたら、今までしとつたけどできてねえならできてねえといふてくれ。できてなかつたら、僕が今度議会報告会でそれは違ふとつたんじゃ言わにおえん、僕はずっと今までそういうことできとつたから。それを確認しよんじゃ。

○消防本部消防長（矢部敬史君） それについては、しておりません、実際。

○委員長（北川勝義君） 今まで行きようたんは何で行きようたん。

○消防本部消防長（矢部敬史君） いや、今までも行っておりません。

○委員長（北川勝義君） 行つとる、行つとるから報告したんじゃもん。事実乗つていつとつたんもあつて、ありがとうございますといふてそのとき来たんじゃもん。

○委員（松田 勲君） 要請があったから行ったんじゃないん。

○委員長（北川勝義君） 救急よ。行ったんじゃ、そりゃあ。

○消防本部消防長（矢部敬史君） 私のほうでそれは把握してないんですが、基本的には備作大橋の真ん中が境になるんで、その向こうあたりであって、そういった……。

○委員長（北川勝義君） そんなことはわかっとる。河床があって川の中で事故があったら備前市はこっちを押せというて、赤磐のほうへ、赤磐市は備前へ押せというて河床でやるんじゃ、けんか。わしや、その現場へおって、県警本部長が最後合同捜査するというて終わったんじゃ。僕はその現場へおったんじゃもん、3時間大げんかしようたんじゃもん。そんなことはわかっとる。佐伯の議会がやりようた、職員の時。じゃけえ、そのときに聞いたり、それとは違うて赤磐が合併したときには。ほんならうそじゃったんか、あれ言ようったのは。事実行つたよ、塩田行った。塩田の助かりましたというて物すげえ町長もいうて行ったんは覚えとる。それで、それがいまだに相互乗り入れのがやりようるから、火事の応援とかじゃねんよ。そういうなんで僕あったと思うたからこの間答えた。なかったんかな。ほんなら、隣に消防車がおって一線離れたらもう行かずによそへ行くんか。

○消防本部消防長（矢部敬史君） はい、基本的には行つとりません。

○委員長（北川勝義君） 基本的にはじゃのうて……。

○消防本部消防長（矢部敬史君） 行つとりません。

○委員長（北川勝義君） 今まで過去ねえんじゃな。

○消防本部消防長（矢部敬史君） はい。そういった例はありません。

○委員長（北川勝義君） いや、そんなことはねえ。わしおったんじゃもん。お礼まで言われたんじゃ、わしが。行つてもろうたんじゃもん、救急で行つたんじゃもん。

○委員（下山哲司君） 旧町の時じゃろ。

○委員長（北川勝義君） 旧町でない、赤磐市になって行つとる。北行つとる。わしおったんじゃもん、おめえ。そりゃ、現状腹が痛えからというて呼んだんじゃねえよ。まあ、よろしいわ。違うとつたら僕は、これは議会報告会で言うとるから、総務文教委員長として言うとるけえわし断りをせにや、違うたら言わにやおえんということ、訂正でも何かせにやおえんと思うたから言ようだけのこと。

いや、僕は確かに行ったと思うで。そりゃ、わしおったんじゃもん。わしが通報者になつてねえかもしれんけど、第一発見者、通報者と一緒じゃ。救急車も呼んじゃった。そこを呼びよたら時間かかるけんここを呼ばにやおえん言うたけえ、呼んじゃったんじゃ、わしが。わしが覚えとんじゃもん、呼んで、来て、塩田の者で。

○委員（松田 勲君） 北川さんが言ようだけじゃ……。

○委員長（北川勝義君） いや、僕が事故した、この間も呼んだんじゃ。この間呼んだら、けがしとんのはどねえなんなら、折れとるようなけえ行かにやあ、そっちの腕はどなん、僕に

言うてもわからんわ、僕は通りすがって電話しちやりよんじゃけえ、いやそこの頭は打ってねえか、どういう向きになつとる言うけえ、おめえええかげんにせえというて、このスナミさんのとき。スナミさんは、北川さんありがとうございます、選挙は入れてねえけんよ、北川さんというてまで言われたんじゃけど。したんじゃもん。

何を言うてくれようる、おめえ、わしは作り話やこうしょうらんわ。一緒におったから、事故のとき行ったんじゃもん。

○委員（松田 勲君） 119番鳴らして。

○委員長（北川勝義君） ええ、私は赤磐消防署の北へ電話しました。こういうときは早う来んからというて。行ったんじゃもん、そりゃもう。

僕が言よんのはうその話をしょうりゃへんから。ただ、それがあつたけえ、そのときありがとうというて言うたら、塩田は喜んでくれたんよ。ありがとうございますというてぼっけえ言うてくれた、北川さんありがとうございますというて。やっぱり近くあつたらええなというていう話をしたんじゃ。相互乗り入れか何か知らんよ。それが、言葉が悪いけえ僕は相互乗り入れかなんかという、しとんかなと思うたん。それはもう間違いない。

○委員（松田 勲君） 臨機応変に……。

○委員長（北川勝義君） してねえんじゃ。ほんならおめえ、今度出張所の前のところで、備作大橋のところで、向こうへ1メートル、真ん中、センターより1メートルというて向こうへちょっと押すんか、今度は、ぱつとこうして。そりゃおめえ、すまあがな。例えば、下山さんが、わし余り、下山さんじゃつたらええと思ようるけど、それでも下山さんが備作大橋の向こう側の和気町分へおって倒れとつたら、わしや引っ張ってでも来て積んで行っちゃらにやおえんが、それが当たり前じゃろう、人情の。おめえらが相互協定できてねえ、そねえなばかなことが通るか、おめえ。

○委員（松田 勲君） まず確認してもろうて。

○委員長（北川勝義君） そりゃおめえ、そういうふうになってねえ。まあええ。もうよろしい。僕が言うて終わりじゃけえよろしいわ。

それからもう1個言うた、終活応援講座というのがこけえあるんじゃ。赤磐ふれあいアカデミー、これは遠藤課長がしょうるところじゃねえんか。違うんか。

○委員（大口浩志君） 終活。

○委員長（北川勝義君） 違う。赤磐ふれあいアカデミー第3回講座。

○副委員長（永徳省二君） ハッピーライフ講座。

○委員長（北川勝義君） ハッピーライフ、創造。それは、あんたとは関係ねえんか。

○まち・ひと・しごと創生課長（遠藤健一君） 違います。

○委員長（北川勝義君） ふうん。まあ何でもええときはふうんというて言ようるけん。

わかりました。これはええなあと思うて、行っちゃりてえなあと思うたけえ言ようるだけ

で。

○委員（下山哲司君） しまおう。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

他になければ、これで第11回総務文教常任委員会を終わりたいと思います。

閉会に当たり、内田教育長のほうから。

何で変わったん。副市長がしょうったのに、いつも。

○委員（松田 勲君） いや、教育長やったよ。

○委員長（北川勝義君） いや違う、前は副市長。あ、教育長だったか。

内田教育長、お願いします。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、内田教育長。

○教育長（内田恵子君） きょうは東学校給食センターを9時半集合、見学、そしてその後続けて総務文教委員会ということで、長時間にわたり本当に熱心に御協議いただきありがとうございました。きょう出たこと、いろいろと念頭に置きながらこれから進めてまいりたいと思います。お世話になりました。

○委員長（北川勝義君） 皆さん御苦労さまでした。

これで、長時間にわたりましたが終わりたいと思います。

最後に市長、金谷議長出られて言われたことがあるけど、産業建設のほうのだけはぴちっとしとってください。そうせなんだからなりません。それはよろしゅうお願いします。

御苦労さまでした。

午後1時32分 閉会